
NATIONAL
DIET
LIBRARY
MONTHLY
BULLETIN
2023.9/10

国立国会図書館
月報



ひなぎくでみる震災の記録

憲政資料のなかの関東大震災

ごぞんじですか？ NDL Ngram Viewer

新連載 NDL Ngram Viewer を使ってみました

第1回 辞書編集の立場から

森田 康夫

749/750号 2023年9/10月

国立国会図書館
月報

NO. 749/750
SEPTEMBER/OCTOBER 2023

CONTENTS

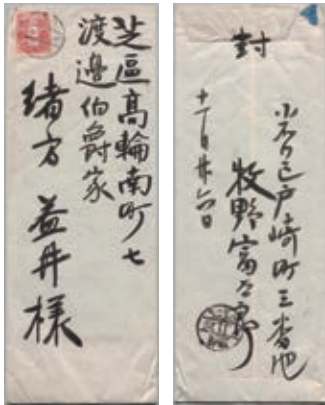
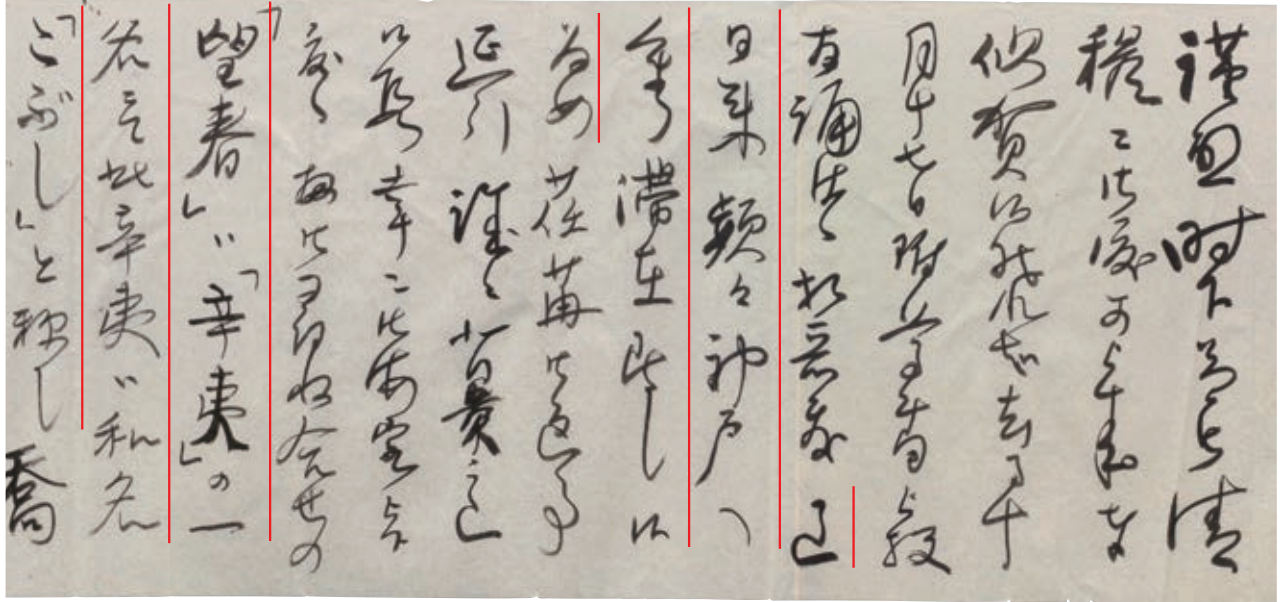
- 1 牧野富太郎の手紙
——辛夷はコブシ、にあらず——
今月の一冊 国立国会図書館の蔵書から
- 6 ひなぎくでみる震災の記録
- 10 憲政資料のなかの関東大震災
- 22 ごぞんじですか？ NDL Ngram Viewer
- 24 NDL Ngram Viewerを使ってみました
第1回 辞書編集の立場から
森田康夫
- 26 館内スコープ
寝不足の震度4
- 27 本屋にない本
『概説高輪築堤』
- 28 NDL TOPICS



表紙：『大正震災写真集 大正十二年九月』
関東戒嚴司令部 編，偕行社，1924，27×37cm
<https://dl.ndl.go.jp/pid/1872746/1/84>

牧野富太郎の手紙—辛夷はコブシ、にあらず—

中嶋 恵子



封筒（表・裏）

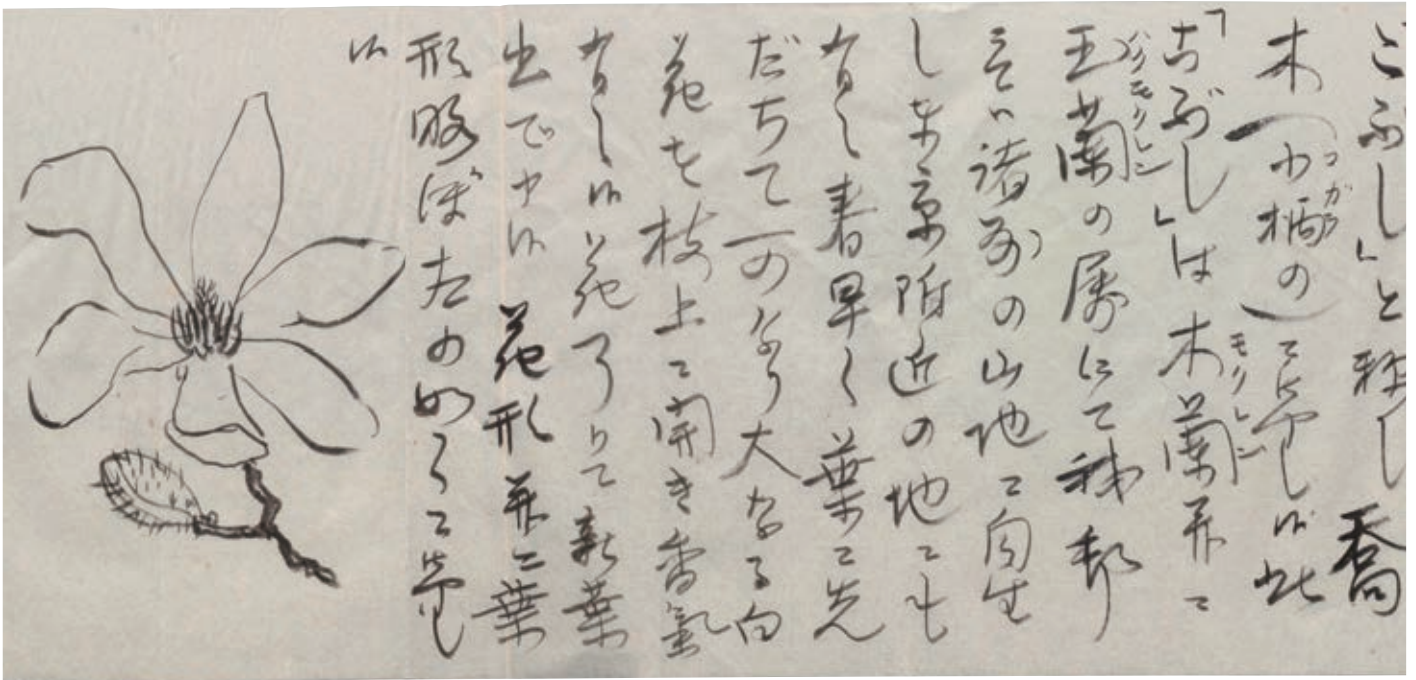
牧野富太郎書簡 緒方益井宛

大正7年11月26日 <渡辺千秋関係文書1122>
<https://dl.ndl.go.jp/pid/9979752>

コブシの花といえば、昭和のヒット曲「北国の春」の歌詞を思い出します。北国出身の青年が、故郷の春の情景としていろいろ思い浮かべるなかに、白樺、青空、南風に続けて「こぶし咲くあの丘」というのが出てきます^[1]。幼いころは「こぶし」がどんな花か分からず、ぎゅっと握った拳のようなごっこつしたものを思い浮かべては「あまり春らしくないな」と思っていました。

上の手紙では、植物学者の牧野富太郎がそのコブシについて解説しています。手紙は、渡辺伯爵邸にいた緒方益井という人物に宛てたもので、「望春」という植物について手紙で尋ねられ、返事を書いたものと思われる。大変に丁寧な書きぶりで、「望春」は「辛夷」の一名にて此辛夷は和名「こぶし」と称し^[2]という説明に始まり、自生地や花の咲き方、新葉の出る時期についても触れています。それだけでなく、花と葉の形を手書きの図で示し、追伸には、もし必要なら来春の開花期に花のついた枝を送ることでまで申し添えています。

また、手紙の冒頭では、返事が遅れたことについても丁寧に謝っています。手紙が書かれたのは大正7（1918）年11月26日で、緒方から最初に手紙を受け取ったからひと月以上もあとでした。牧野は遅延の理由として「過日来頻々神戸へ参り滞在致し候為め」と書



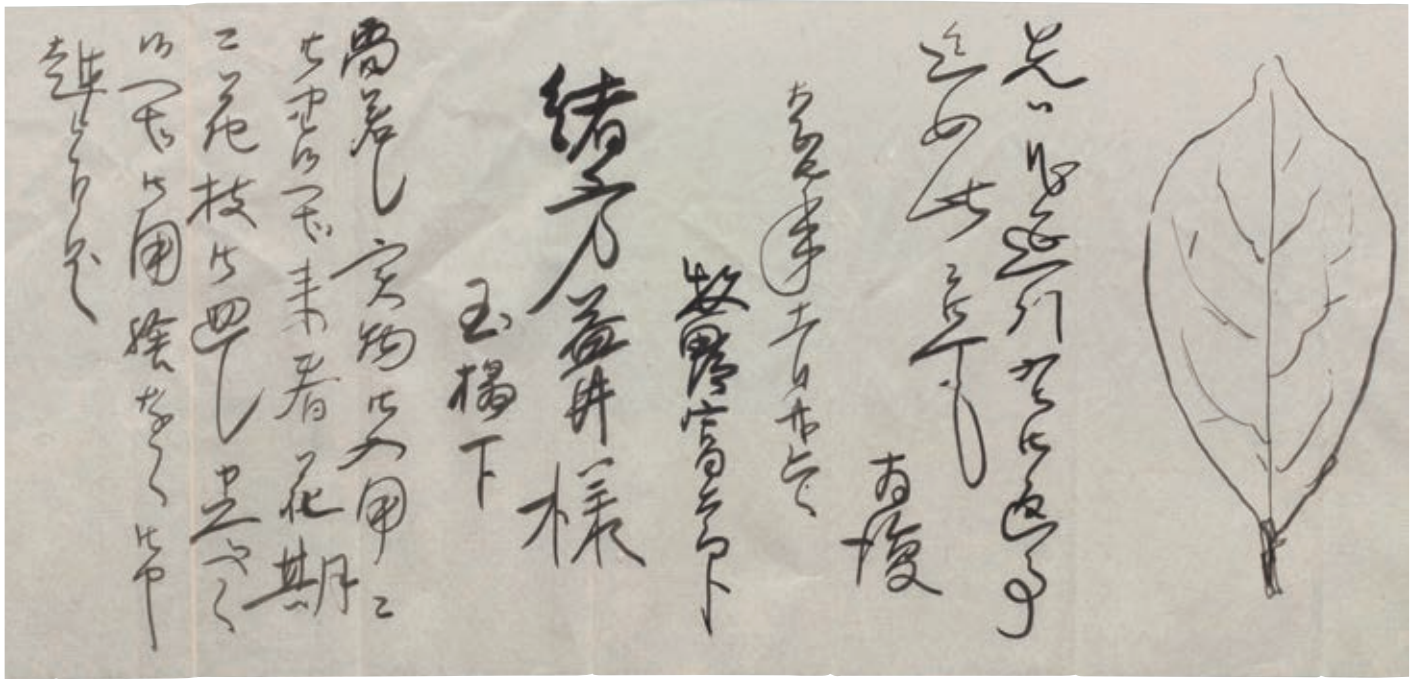
池長植物研究所での写真。向かって右の人物が牧野で左は池長孟。
 『週刊サンケイ』4(18), 1955.5.1 <Z24-17>

いています。この神戸への頻繁な訪問というのは、同月3日に神戸で開所式を行なったばかりの池長植物研究所と関係があるものと思像でき、興味深いところです。

池長植物研究所の設立は、牧野を援助するためのものでした。それというのも、牧野は長年研究に私財を投じ続けた結果、借金が膨らみ、大正5年頃には絶体絶命の状況に陥っていたからです。それまで蒐集した大切な標本を西洋にでも売ってお金に換えるしかないと牧野が考えていたときに、兵庫県の篤志家、池長孟が援助を申し出ました。池長は京都帝国大学の学生という身分でしたが、父親から相続した資産を使って牧野のために研究所を設立し、買い取った標本を収めます。牧野は所長として迎えられ、東京から通ったそうです。

当時牧野は56歳であり、94歳まで続く長い研究人生の途上でした。このときの援助がなければ貴重な標本は散逸し、のちの研究やその集大成である植物図鑑の刊行に大きく影響する可能性もありましたので、非常に重要な出来事だったといえます。

ところで、この手紙のなかでは「辛夷は和名「こぶし」と称し」と述べている牧野ですが、昭和に入ると逆に「辛夷ハ我がこぶしデハアルマイ」とか「コブシはコブシであって決して



コブシの木 (筆者撮影)

これを辛夷とは書くべからず³⁾といった言葉を残しています。

昭和13(1938)年の雑誌『漢方と漢薬』に掲載された「辛夷はコブシではなく木蘭はモクレンではない⁴⁾」という牧野の著述によれば、中国の書物などに出てくる「辛夷」という漢名に対し、日本で長い間コブシを当てはめてきたことは「トンデモナイ」間違いだということです。『八種画譜』や『秘伝花鏡』など、中国の書物に描写された「辛夷」は、日本でコブシと呼ばれる白い花とは特徴

モクレン属の一部の日中における表記

学名	Magnolia Kobus DC.	Magnolia liliflora Desr.	Manglietia fordiana Oliv.
写真 (図)		 	
中国での表記 (漢名)	なし (中国に分布なし)	辛夷	木蘭
日本での表記	コブシ、辛夷	モクレン、木蘭	なし (日本に分布なし)
現代の日中の植物図鑑等での表記	漢名：なし 和名：コブシ ※中国語でコブシを紹介するときに「日本辛夷」と表記することがある。 ※日本では漢方の生薬「辛夷(しんい)」の原料としてコブシの蕾も使用される。	漢名：辛夷、紫玉蘭 など 和名：モクレン ※漢方の生薬「辛夷」の原料としては玉蘭(日本でいうハクモクレン)や望春玉蘭など他のモクレン科の植物の蕾も使用される。	漢名：木蘭(木蓮) 和名：なし ※「木蘭」は古い時代には玉蘭をはじめ、他のモクレン科の植物を指すこともあった。

植物の写真：筆者撮影

植物の図：『秘傳花鏡 6巻 併圖』(清)陳漢子撰, 康熙27[1688]序 <https://dl.ndl.go.jp/pid/2557457>

植物図鑑等での表記：『中国本草図録』巻1, 蕭培根 主編, 真柳誠 訳編, 中央公論社, 1992, p.5,49 <SD2-E50>

『中国本草図録』巻10, 蕭培根 主編, 真柳誠 訳編, 中央公論社, 1993, p.56 <SD2-E50>

『唐詩植物圖鑑(文學珍藏; 2)』潘富俊著, 貓頭鷹出版, 2001, pp.130-131 <RA5-C14>

『中国薬用植物図鑑』第二軍医学薬学系生薬教研室編著, 上海教育出版社, 1960, p.731 <XP-B-4811>

『原色世界植物大図鑑』北隆館, 1986, p.499 <RA5-104>

『中薬材鑑定図典』趙中振, 陳虎彪 原書著, 劉成林 訳, エヌ・ティー・エス, 2012, p.259 <SD2-J149>

TAKAO 599 MUSEUM ウェブサイト「コブシ」(繁体字)

<https://www.takao599museum.jp/treasures/plants/モクレン科/1312/?lang=tw>

が異なり、外側が薄紫で内側が白く、それは日本でいうモクレンであると牧野は述べています。

少々ややこしい話なので、牧野の指摘を表の二重線より上の部分にまとめました。牧野はまず、コブシはそもそも日本原産で中国には分布しておらず、したがって漢名もないと考えます。そして中国でいう「辛夷」は、中国の書物の描写から、日本でいうモクレンであると考えました。では、中国の文献に「木蘭」と書かれる植物は何かというと、それは日本では見ることができない未知の常緑高木ではないかと推測しています。

中国で編纂された『中国本草図録』の日本語版をはじめとする日本や中国で刊行された現在の植物図鑑では、これらの植物についての表記は概ね表の二重線より下のとおりです。牧野の指摘は正しかったことが分かります。牧野の言うとおり、中国でいう「辛夷」をコブシに当てはめたのは間違いなのです。

しかし、もともとは誤用であったとしても、すでに日本の文化に根ざした使い方です。今でもインターネットで「辛夷」と日本語で検索すれば、表示されるのは白いコブシの花ばかり。「本当は違うのに…」と牧野の嘆息が聞こえてきそうです。

国立国会図書館展示会の「植物」関連コンテンツ紹介

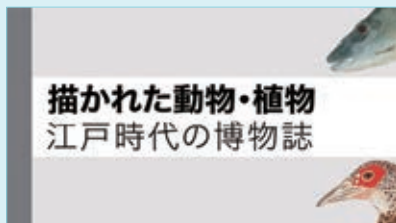
✧電子展示会「NDLイメージバンク」



特集 植物を描く <https://rnavi.ndl.go.jp/imagebank/botanical.html>

NDL イメージバンクでは、2,000 点以上の花や植物の画像を提供しています。

✧そのほかの電子展示会等



<https://www.ndl.go.jp/nature/>



https://rnavi.ndl.go.jp/jp/gallery/post_986.html



https://rnavi.ndl.go.jp/jp/gallery/post_1080.html

「描かれた動物・植物 江戸時代の博物誌」は江戸時代博物誌の資料を紹介する電子展示会です。

このほか、「黎明期の植物学と牧野富太郎」や「プラントハンティングと植物画」など、東京本館の国立国会図書館ギャラリーで開催した過去の展示会をデジタルで楽しめるコンテンツも提供しています。

- 1 「北国の春」 1977, 歌: 千昌夫, 作詞: いではく, 作曲: 遠藤実
- 2 『牧野植物学全集』 第3巻 (植物集説 上) 牧野富太郎著, 誠文堂新光社, 1935, pp.453-454
<https://dl.ndl.go.jp/pid/1236275/1/240>
- 3 『植物一日一題: 随筆』 牧野富太郎著, 東洋書館, 1953, pp.269-270 <470.49-M162s2>
- 4 『漢方と漢薬』 5(11), 日本漢方医学会, 1938.11, pp.1-7 <https://dl.ndl.go.jp/pid/1471551/1/4>

○参考文献

『神戸新聞』 1918.11.4 <YB-677>

『牧野富太郎自叙伝』 長嶋書房, 1956, pp.69-73 <289.1-M162m>

※ URL の最終アクセス日: 2023年7月14日

※ 引用の旧字は新字に、旧仮名づかいはママとしました。

ひなぎくでみる震災の記録



国立国会図書館東日本大震災アーカイブ（ひなぎく）トップページ（<https://kn.ndl.go.jp/>）

今年には関東大震災発災100周年に当たり、改めて地震災害への関心が高まっています。近年でも平成23年3月11日に発生した地震は、東北地方を中心に未曾有の被害をもたらしました。この東日本大震災に関する記録を残すため、各地の自治体や図書館、研究機関などが震災アーカイブを構築しました。また、写真・動画の投稿サイトなども多く立ち上がりました。

国立国会図書館では、これらの震災の記録を一度に検索できるポータルサイト、国立国会図書館東日本大震災アーカイブ（愛称：ひなぎく）を運営しています。被災地の復旧・復興事業、今後の防災・減災対策や学術研究・教育等に活用されることを目指しており、愛称のひなぎくは、ひなぎくの花言葉「未来」「希望」「あなたと同じ気持ちです」に、復興への思いを込めています。主な収集対象は東日本大震災ですが、過去に発生した地震・津波災害等の記録や、東日本大震災発生後の震災の記録も含んでいます。平成25年3月7日に公開され、今年で10年を迎えました。

当初は総務省と連携して構築しましたが、総務省構築分も当館に移管され、今は当館が単独で運営しています。

ただし、当館だけで東日本大震災関連の記録を収集し、保存しようというわけではありません。ひなぎくの基本理念として、官民の機関による分担、連携、協力を掲げており、収集・保存を行うのは各地の震災アーカイブです。各震災アーカイブは、写真や動画など、収集したコンテンツにタイトルや作成者、撮影日時といったメタデータを付与しています。このメタデータを受け取り、一度に検索できるようにしてあります。

ひなぎくの検索方法としては簡易検索・詳細検索・カテゴリー検索があり、検索結果は資料種別や提供元などで絞り込めます。さらに、ひなぎくの「詳細情報画面」のリンクから各連携先アーカイブに移動して、コンテンツを閲覧することができます。ひなぎく自身でコンテンツを保存・提供しているものもあります。

令和5年7月現在52機関、58件の

ひなぎくでの記録の探し方



ひなぎくの詳細検索画面。資料種別や提供元をあらかじめ限定して検索することもできます。



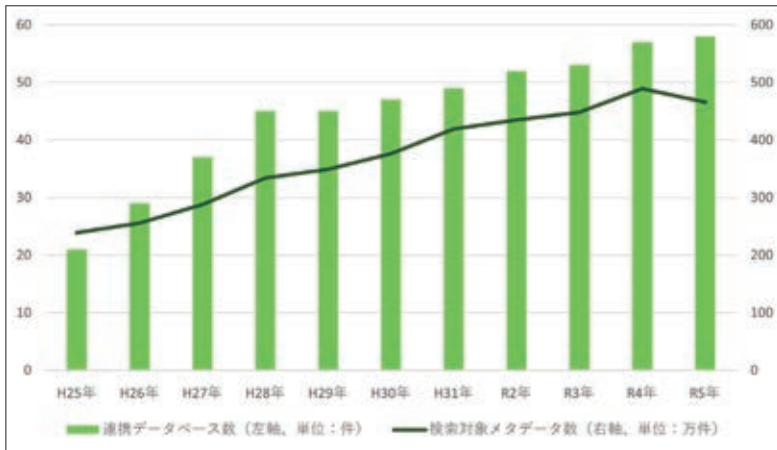
検索結果「(詳細情報を見る)」をクリックしたときに表示される詳細情報画面。メタデータと資料画像へのリンクが掲載されています。



キーワード「はまゆり」で検索した時の検索結果一覧。

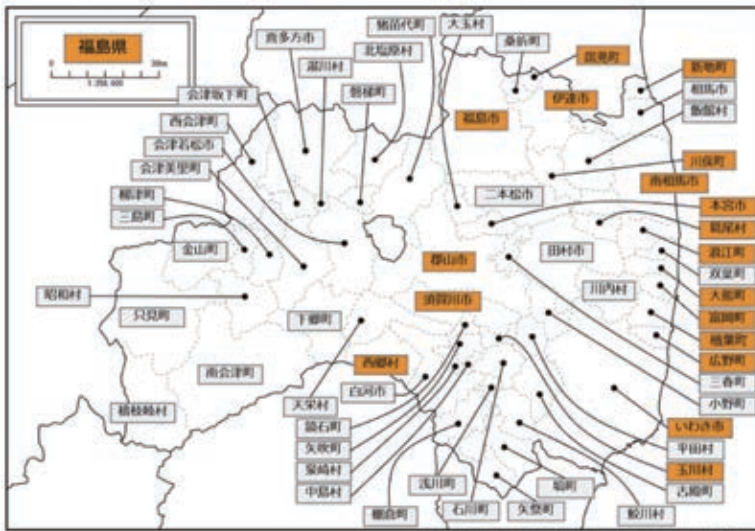


提供元アーカイブでの資料閲覧画面。
(大槌町水道事業所撮影「民宿あかぶ屋上に乗り上げた観光船はまゆり」(大槌町震災アーカイブつむぎ))



平成 25 年から令和 5 年までのひなぎく連携の推移

データベースと連携しています(当館データベースを含む)。連携データベース数は公開時の21件から3倍近くに、公開時に239万件だったメタデータ件数は、今ではほぼ倍の466万件になりました。まだ連携していない東日本大震災関連のアーカイブがありますので、現在も引き続き連携を進めています。



(上)「東日本大震災 被災地の記憶」のうち福島県の部分。地図上でオレンジ色になっている自治体名をクリックすることで各自治体に関連する震災の記録誌を探することができます (https://kn.ndl.go.jp/static/ja/kioku.html)。

(右上)「テーマ別検索」のうち事象図の部分。調べたい事象をクリックすることで記録を探することができます (https://kn.ndl.go.jp/static/ja/click.html)。

(右下)「地震年表(明治期以降:1868～)」の冒頭部分。地震ごとに、報告書へのリンクや検索語例などをまとめています (https://kn.ndl.go.jp/static/ja/earthquake.html)。



地震年表(明治期以降:1868～)

明治 | 大正 | 昭和 | 平成

地震年表(下欄:1974年～2024年)まで

発震年月日	震源地 (リンク先は防災行政資料館内)	震害規模(内閣府)		被害状況		被害総額 (億円)	死者・行方不明者 (人)	ひなぎく検索 キーワード
		震度	有感の広がり (広域「震うまわり」 範囲)	被害総数	被害総面積 (km ²)			
明治31(1872)年 4月14日	新潟地震							新潟地震、新潟、津波、山形、福島、岩手、秋田、青森
明治34(1891)年 10月28日	濃尾地震	□	東海					濃尾地震
明治39(1906)年 6月15日	関東大震災	□	関東					関東大震災、東京、津波、山形、福島、岩手、秋田、青森
明治47(1914)年 6月12日	徳島地震							徳島地震
明治50(1917)年 4月1日	宮城県沖地震							宮城県沖地震、岩手、秋田、青森
大正12(1923)年 9月1日	関東大震災	■	関東、東海、東北、北陸、山形、福島、岩手、秋田、青森	約1,000,000	約100,000	約100,000,000,000	約100,000	関東大震災、東京、津波、山形、福島、岩手、秋田、青森



ひなぎくの使い方を紹介する「ひなぎく使い方講座」という動画も公開しています。

- 1 「ひなぎく」って? (https://kn2.ndl.go.jp/pid/12132732/1/1)
- 2 詳しい検索のやり方 (https://kn2.ndl.go.jp/pid/12132733/1/1)
- 3 ひなぎくを使ってみよう! (https://kn2.ndl.go.jp/pid/12132734/1/1)



中越地震の発災時期に合わせて行ったひなぎくトップページの更新。

利活用促進のための試みも行っています。「テーマ別検索」という、利用者が自分で検索語を入れなくても検索できる仕組みを作ったり、「地震年表」を作成・公開したりしてきました。「東日本大震災 被災地の記憶」というページでは、被災自治体が作成した記録誌を地図から辿って閲覧することができます。令和4年にはひなぎくの使い方を紹介する動画を3本公開しました。また、例年、熊本地震、中越地震、阪神・淡路大震災の発災時期にこれらの地震に関する画像をひなぎくトップページに掲載しています。今年9月1日から20日までは関東大震災の画像を掲載する予定です。

また、震災に関するイベントを開催したり、参加したりしています。平成26年から毎年1月に東北大学災害科学国際研究所との共催で東日本大震災アーカイブシンポジウムを開催してきました。各地の震災アーカイブなどから報告いただき、パネルディスカッションも行っています。資料や動画はひなぎくで閲覧できます。

ひなぎくの連携データベース (令和5年7月現在)

- ・青森震災アーカイブ
- ・朝日放送テレビ 阪神淡路大震災 激震の記録 1995 取材映像アーカイブ
- ・茨城県東日本大震災デジタルアーカイブ (承継)
- ・いわき震災伝承みらい館震災アーカイブ検索
- ・岩手県の自然災害と東日本大震災に関する資料リポトリ (岩手大学)
- ・いわて震災津波アーカイブ～希望～
- ・浦安震災アーカイブ (浦安市立図書館)
- ・大槌町震災アーカイブ つむぎ
- ・学術機関リポトリデータベース (IRDB) (国立情報学研究所) ※
- ・語り継ぐもの (中越地震データベース)
- ・河北新報 震災アーカイブ
- ・カレントアウェアネス・ポータル (国立国会図書館) ※
- ・久慈・野田・普代震災アーカイブ
- ・熊本災害デジタルアーカイブ
- ・神戸大学附属図書館デジタルアーカイブ震災文庫
- ・郡山震災アーカイブ
- ・国立国会図書館インターネット資料収集保存事業 (WARP) ※
- ・国立国会図書館雑誌記事索引※
- ・国立国会図書館蔵書※
- ・国立国会図書館デジタルコレクション※
- ・災害記念碑デジタルアーカイブマップ (防災科学技術研究所)
- ・災害写真データベース (一般財団法人消防防災科学センター)
- ・災害・文献データベース (中越防災安全推進機構)
- ・市町村史に記された地震の記録 (埼玉県立熊谷図書館)
- ・震災関連資料コーナー (岩手県立図書館)
- ・震災ライブラリーオンライン版 (東北大学附属図書館)
- ・赤十字原子力災害情報センター デジタルアーカイブ (承継)
- ・土木学会東日本大震災アーカイブサイト
- ・長岡市災害復興文庫 (長岡市立中央図書館歴史文書館)
- ・日本原子力研究開発機構図書館蔵書※
- ・日本災害 DIGITAL アーカイブ (ハーバード大学ライシャワー日本研究所)
- ・農林漁業協同組合の復興への取組み記録 東日本大震災アーカイブズ (農林中金総合研究所) (承継)
- ・はまどおりのきおく - 未来へ伝える震災アーカイブ - (医療創生大学)
- ・東日本大震災アーカイブ宮城
- ・東日本大震災 写真保存プロジェクト (Yahoo! JAPAN)
- ・東日本大震災の記録 (学校法人東北学院)
- ・東日本大震災福島県復興ライブラリー (福島県立図書館)
- ・人と防災未来センター 資料室
- ・福島原子力事故関連情報アーカイブ (日本原子力研究開発機構)
- ・防災科学技術研究所自然災害情報室蔵書目録※
- ・防災専門図書館蔵書 (全国市有物件災害共済会)
- ・放射線医学県民健康管理センター デジタルアーカイブ (福島県立医科大学)
- ・みえ防災・減災アーカイブ (三重県・三重大学 みえ防災・減災センター)
- ・未来へのキオク (Google)
- ・みちのく震録伝 (東北大学災害科学国際研究所)
- ・立教大学共生社会研究センター
- ・わかりやすいプロジェクト 国会事故調編
- ・CiNii Articles (国立情報学研究所) ※
- ・J-STAGE (科学技術振興機構) ※
- ・NHK 東日本大震災アーカイブス
- ・niconico
- ・NVEC 災害復興支援女性アーカイブ
- ・2014年神城断層地震震災アーカイブ (信州大学教育学部 廣内研究室)
- ・3がつ11にちをわすれないためにセンター (せんだいメディアテーク)
- ・3.11 いわて NPO チラシアーカイブ (いわて連携復興センター)
- ・3.11 震災文庫 (仙台市民図書館)
- ・311ドキュメンタリーフィルム・アーカイブ (YIDFF)
- ・3.11 忘れない FNN 東日本大震災アーカイブ

※ひなぎくでは、この中から震災に関するもののみ検索することができます。

近年の課題としては、東日本震災から10年が経過して、閉鎖される震災アーカイブが増えていることが挙げられます。その場合、まずは近隣のアーカイブ(県立の震災アーカイブなど)にデータを引き渡すことをご検討いただくのですが、引き取り手が存在しない場合には、ひなぎくが承継して公開することとしています。令和3年に2件、令和4年には1件の震災アーカイブを承継しました。ただし、承継できるのはメタデータとコンテンツのみで、元の震災アーカイブのシステムをそのまま移すことはできません。そのため、元の震災アーカイブ独自の検索機能などは承継できませんが、今後も可能なかぎり閉鎖される震災アーカイブの承継を行っていきます。

国立国会図書館は今後も引き続き、ひなぎくを通じて震災記録の収集、保存、活用に取り組みます。ご支援・ご利用のほどよろしくお願いたします。

(電子情報部 電子情報流通課)

憲政資料のなかの関東大震災



『東都之惨状 大正十二年九月大震災火災紀念』錦泉社木版所, 1923
<https://dl.ndl.go.jp/pid/12514154/1/12>

すえたけ よしや
季武 嘉也

国立国会図書館客員調査員・創価大学文学部教授
専攻は日本近現代政治史。著書に『大正期の政治構造』（吉川弘文館、1998年）、『選挙違反の歴史』（吉川弘文館、2007年）、編著書に『大正社会と改造の潮流』（吉川弘文館、2004年）、『日記で読む近現代日本政治史』（黒沢文貴と共編、ミネルヴァ書房、2017年）など多数。

地震を記録する

日本においてその被害が記録に残る最も古い地震は、西暦599年に発生した推古地震であるが、地震国日本では昔から地震など天変地異に対し、その教訓を残そうという意識が強かったようである。国立国会図書館も平成23（2011）年に発生した東日本大震災に関するデジタルデータを一元的に検索・活用できるポータルサイト「国立国会図書館東日本大震災アーカイブ（愛称「ひなぎく」）」を総務省と分担して構築し（2013年公開）、将来の防災・減災対策に役立てようとしてきたが、今からちょうど100年前に起きた関東大震災についても、近年とみ

にその関心が高まっている。

大正12（1923）年9月1日午前11時58分に発生した地震はマグニチュード7.9（推計）を記録し関東地方を襲ったが、これほどの規模は日本の近代都市としては初めての経験であり、火災をはじめ家屋倒壊、土砂災害、津波などによる死者・行方不明者が10万人以上にのぼった。

この大震災については、例えば、中央防災会議（事務局・内閣府）の災害教訓の継承に関する専門調査会が平成18年7月及び平成21年3月に報告書を作成して、発災とメカニズム、救援と救済、復興と社会的インパクトの各側面から総括し、また防災科学技術研究所はホームページ

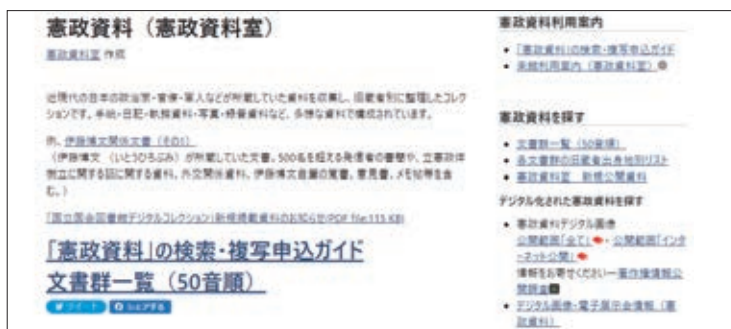
憲政資料のページ



国立国会図書館ホームページ (<https://www.ndl.go.jp/>) から、「リサーチ・ナビ」(<https://rnavi.ndl.go.jp/jp/>) のトップページに入る。上のバーから「資料の種類から調べる」(<https://rnavi.ndl.go.jp/jp/material.html>) に入る。



憲政資料室の所蔵資料として「憲政資料」「日本占領関係資料」「日系移民関係資料」がある。



「憲政資料 (憲政資料室)」(<https://rnavi.ndl.go.jp/kensei/jp/index.html>) のページに入る。

上に「関東大震災資料：リンク集」(<https://dl.bosai.go.jp/disaster/1923kantoeq/link.html>) を「自然災害情報室」のページに掲載し、国立映画アーカイブと国立情報学研究所は令和3(2021)年から「関東大震災映像デジタルアーカイブ」(<https://kantodaishinsaiarchives.jp/>) を構築・開設して震災関連の動画を公開している。

このほか、震災の視覚的記録を駆使して災害と復興を論じたジェニファア・ワイゼンフェルド著・篠儀直子訳『関東大震災の想像力』(青土社、2014年)という興味深い著作も刊行された。

憲政資料の震災記録を探す

そこで、ここでは国立国会図書館憲政資料室が所蔵する資料の中から、関東大震災関係の資料を紹介して、その一つに加えたいと考えている。憲政資料室の多彩な収集対象のうち、憲政資料は日本の憲政史に関わる文書資料の一大コレクションとなっており、いわゆる公文書と異なっており、憲政資料の大半は個人文書であるため、そこには公私にまたがる多様なものが紛れ込んでおり、他の所蔵機関のそれとは一味違ったコレクションとなっているのが特徴である。

まずは、検索の仕方から始めたい。残念ながらすべてではないが、大半の文書群はインターネット上から目録を閲覧す

目録の閲覧～樺山資英関係文書を例に～



リサーチ・ナビの「憲政資料（憲政資料室）」(https://navi.ndl.go.jp/kensei/jp/index.html)のページに入る。文書群一覧（50音順）(https://navi.ndl.go.jp/kensei/jp/titlelist.html)で目当ての文書を探す。

樺山資英関係文書

2022年5月6日 更新 [憲政資料室 巻](#)

納入事項
所蔵

資料形態
原資料

数量
968点

書架延長
2.3m

旧蔵者
樺山資英（かばやまあきひで）

旧蔵者生没年
1868-1941

旧蔵者出身地
鹿児島

旧蔵者経歴
明治元（1868）11月鹿児島県生まれ。高島精之助の次女。1893.6イェール大学を卒業。1895.5台湾総督府参事官（樺山資紀とともに入台入り）、1896.4高島精之助の船務大尉秘書官兼書記兼隊長、1897.6第2次松方正義内閣總理大臣秘書官、1898.1逓信免本官、1898.11樺山資紀文部大臣秘書官、1899.1文部大臣官房秘書長兼、1900.10依願免本官、1914.3南洋洲鉄道株式会社理事、1923.9第2次山本梅次内閣内閣書記官長、1924.1青森県議員、1930.3第1次水産相兼、1934.1四国電力株式会社社長、1941.3.19死去。

電子展示会へのリンク

- 近代日本人の肖像「樺山資英」

納入
1971年3月、個人より譲渡

主な内容
大部分は、樺山資英・資紀・資純、高島精之助宛の文類である。文類には日記および憲法資料が多く、樺山資英の日記・手紙（1887年、1919年～21年、1927年、1930年～32年、1935年～41年のもの全16冊）、1945年～46年の樺山資英手紙（m）日記、樺山資英・資純手紙等がある。公的公文書としては、明治40年代の松山関係・信濃川水力発電関係書類、1923年の関東大震災関係書類、昭和初期の樺山資英関係書類などがあるが、まとまった数量ではない。

検索手段

- 樺山資英関係文書目録 (PDF 637.0 KB)

複製
マイクロフィルム（8巻）で複製

関連大蔵
【資料紹介】
季武高也「樺山資英」『近代日本人の肖像』、吉川弘文館、2004

【複製】
『樺山資英』樺山資英伝刊行会、1942

[サイト](#) [PDF](#)

憲政資料利用案内

- 憲政資料の検索・閲覧申込みガイド
- 憲政資料室（憲政資料室）

憲政資料を探す

- 文書群一覧（50音順）
- 各文書群の目録表（目録表リスト）
- 憲政資料室 新設公開資料

デジタル化された憲政資料を探す

- 憲政資料デジタル画像
公開範囲「全て」[公開範囲「インターネット公開」](#)
情報をお知らせください—[憲政資料室公開範囲](#)
- デジタル画像・電子版公開情報（憲政資料）

参考

- 近代史資料研究会編『近代史資料研究会』
- 憲政資料の検索ツール

憲政資料室

- 憲政資料室の紹介

憲政資料室の所蔵コレクション

- 憲政資料
- 日本と朝鮮関係資料
- 日本朝鮮関係資料

憲政資料室所蔵資料を見られる電子展示会

第三回 憲政資料室所蔵資料展

日記の世界

史料にみる日本の近代

日本国憲法の誕生

あの人の直筆

デジタル画像

各文書群のページに入る。一つひとつの文書群の目録を閲覧することができる。

「樺山資英関係文書目録」より

264	意見書類	
265	紀行文集(大海随見録・台湾遠征略記・渡米航海日誌・互相巡遊略記)	
266	文章稿(人と和歌・三言(人・思想・国家)・他一点)	
267	おもひ出草	
268	備荒貯蓄法一件	明治13年
269	明治28年渡台中両親へ郵送セル書 續写二雑記	
270	文部省関係書類	明治32-33年
271	松山関係書類	明治43年
272	信濃川水力電気書類	明治45年
273	震災関係書類	大正12年
274	震災関係書類 新聞切抜	大正12年
275	内閣関係書類	

一つひとつの文書群の目録のファイル内を一覧したり、PDFファイル内を検索したりすることができる。

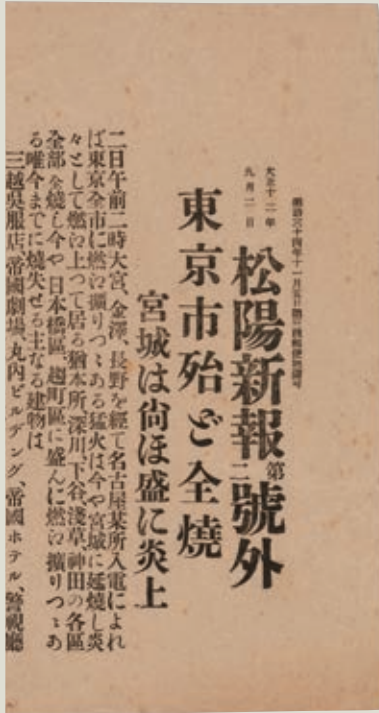
リサーチ・ナビの検索結果画面

The screenshot shows the search results page for 'kensei 関東大震災' on the Research Navigator website. The search bar at the top right contains the text 'kensei 関東大震災' and is highlighted with a red box. Below the search bar, the text '「kensei 関東大震災」と入力' is written. The main content area displays search results for 'kensei 関東大震災', including a list of documents and a search filter set to 'Relevance'.

<https://mavi.ndl.go.jp/search.html?q=kensei%20%E9%96%A2%E6%9D%B1%E5%A4%A7%E9%9C%87%E7%81%BD>
URL [本記事pp.10-13] の最終アクセス日 2023年7月21日

ることができる（右頁）。したがって、それら目録を一つひとつ見ていけばよい。ただ、大まかではあるが、実は多くの手間をかけずとも、もっと簡単な横断的検索方法がある。国立国会図書館のホームページ上から「リサーチ・ナビ」に入れば画面の上部右側に検索窓があるので、そこに「kensei」と入力し、(URLに「kensei」と入っているものを拾ってくれることになる)、続けて検索したい単語を入力すれば、その単語がタイトル・作成者・宛先・備考など目録中のいずれかの欄に含まれている個別資料が一覧となって現れるのである（上図）。検索語は自由に設定できるので、この方法であれば、例えば憲政資料全体の中から特定人物に関する資料を探そうとする場合、その人名を入力することでかなりの部分が判明する。おそらく、多くの研究者にとって有用な機能ではないであろうか。

そこで、今回は「kensei 関東大震災」で試みたところ、知らなかった資料を見いだすことができた。ただし、例えば目録上で単に「震災」としか表記されていないためヒットしなかったり、逆にヒットしながら無関係のものが紛れ込んでいたりする可能性は当然ある。したがって、完全さを追求しようとすれば、検索の仕方にさらなる工夫が必要となるが、この点はどうかご了承願いたい。



『大阪毎日新聞』号外 大正12(1923)年9月2日
 <憲政資料室収集文書 1372-9>

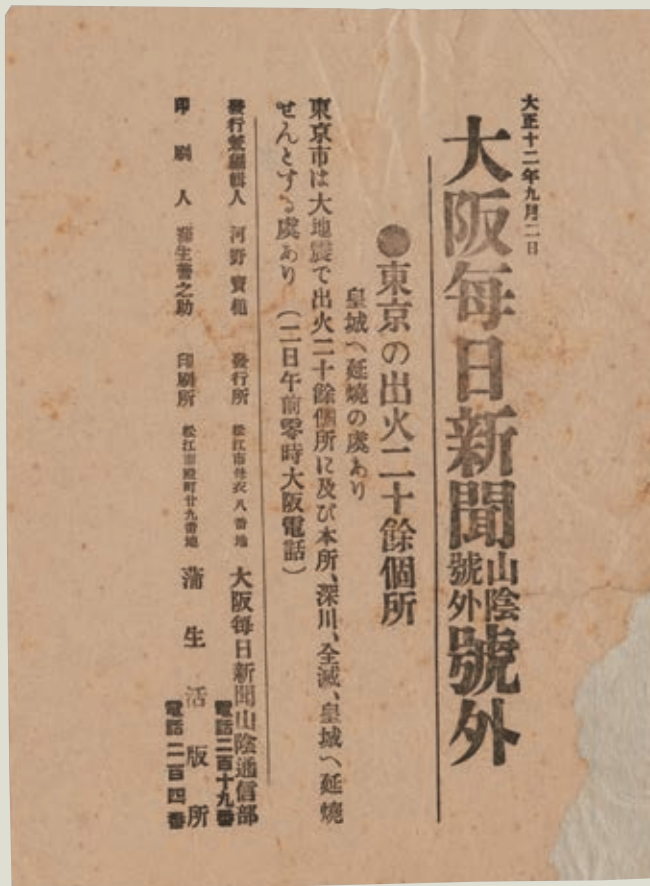
憲政資料の中の関東大震災関係資料
 さて、憲政資料の中の関東大震災関係資料をいくつか大別して紹介しよう。

第一に目を引くのが「憲政資料室収集文書1372 関東大震災直後の新聞・雑誌」である(上の写真)。これは個人の方から寄贈されたものであり、おもに大阪や島根で発行された53点の新聞で構成されている。

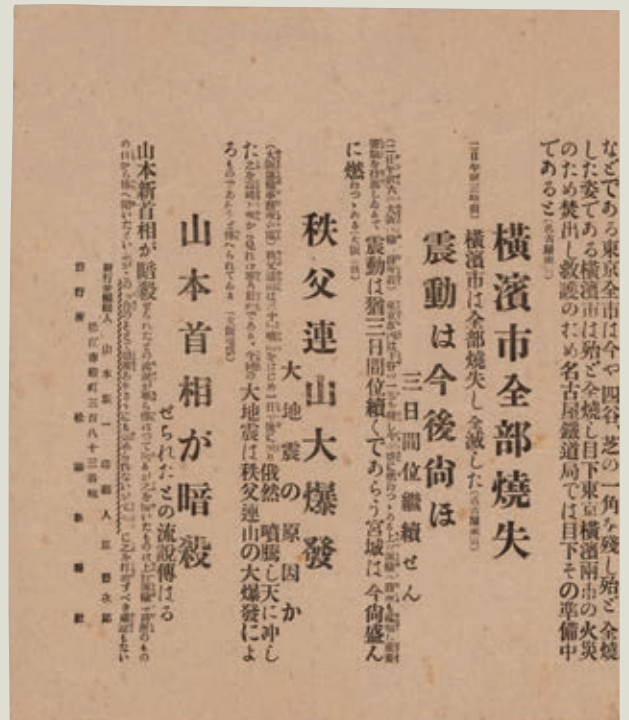
第二は、当時何らかの公職にありその関係から震災に関わる公文書類が個人文書中に残ったものである。例えば、東京市長永田秀次郎、内閣書記官長樺山資英、宮内大臣牧野伸顕、朝鮮総督齋藤実の文書や、「東京湾要塞司令部資料」には、さまざまな記録や報告書などが含まれる。

第三に、岡田猛次郎(「憲政資料室収集文書1493」)、下村宏、木内曾益、新居善太郎の個人文書中には震災についての興味深い回想が存在する。

そして第四として、龍野周一郎、佐々弘雄、阪谷芳郎、重光葵、金子堅太郎らの個人文書中の日記や書簡など、震災当時の生の声を伝える私文書の存在を挙げることができる。このうち龍野と阪谷の震災当日の日記は、電子展示会「国立国会図書館憲政資料室 日記の世界」に原本の画像が紹介されているので参考にされたい。



『大阪毎日新聞』山陰号外 大正12(1923)年9月2日
 <憲政資料室収集文書1372-10>



『松陽新報』号外(第二) 大正12(1923)年9月2日
 同紙は島根県の地方紙
 <憲政資料室収集文書1372-30>

国立国会図書館憲政資料室 日記の世界

主なできごと

- 1921年11月12日 ワシントン会議閉会
- 1922年9月1日 関東大震災
- 1923年9月5日 皇太后崩御
- 1923年9月12日 皇太后崩御(昭和天皇)
- 1924年12月25日 大正天皇崩御(昭和天皇)
- 1924年2月20日 第14回衆議院議員総選挙(西園寺公望)
- 1924年7月2日 山口洋子結婚

日本領事館で遭遇した関東大震災 (大正12(1923)年9月1日)

晴天。東京大地震。赤日キクラブにあり、奥室に赴かんとする為、階段を昇る中地よりふらふら、船んど転倒せんばかりにて、突如より道路に走り出て、道【たどち】に自働【動】車にて西片母上を訪ひ、原町町に帰る。それより皇宮震動地へず。東京大平焼失の由。

関東大震災、消防隊に合わず (大正12(1923)年9月2日)

午前十一時五十分大地震。一次災甚なりしをもち、築地一角を救はんとして蒸気ポンプを稼働しが、一台も受らず。工具無断無くべし。午後八時迄。別宅及事務所全焼す。

関東大震災の翌日に (大正12(1923)年9月2日)

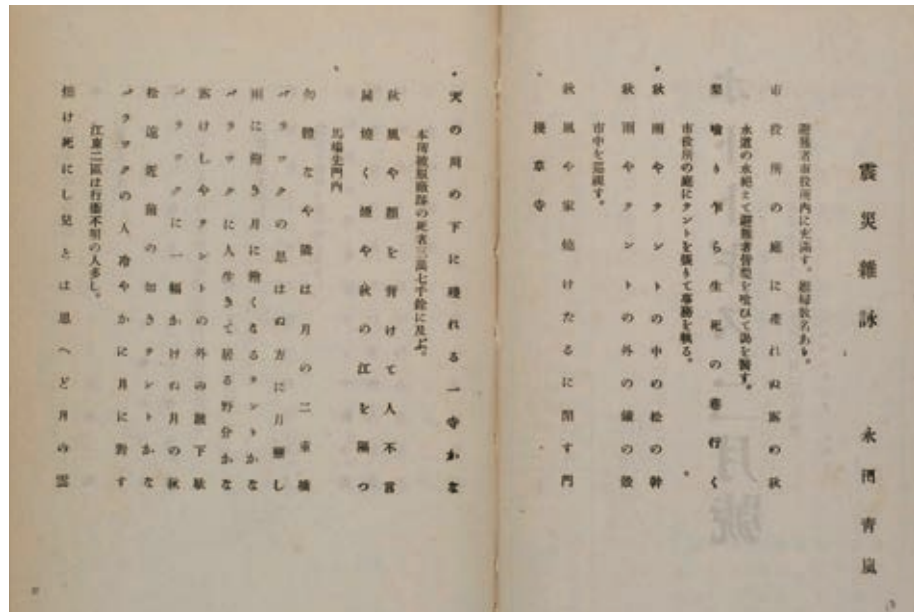
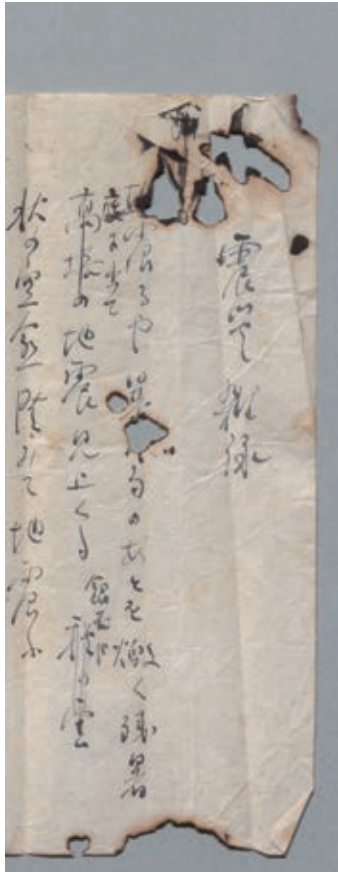
王子邸を焼失す。被爆部心。流矢大人夫人試之助等。庭に借り置を作り置る。正徳氏消息不明の由。夫人と相談し、救済及援助に付大方針を皇朝市消防監會議事所に申送る。

近代以降の日記をさまざまな形で紹介している。
<https://www.ndl.go.jp/nikki/>

(下) トップページ

(左) 「年表から日記を見る」の1920年代のページ。
<https://www.ndl.go.jp/nikki/timeline/1920/>
 関東大震災近辺の日付の日記の原本の画像も
 見ることができる。





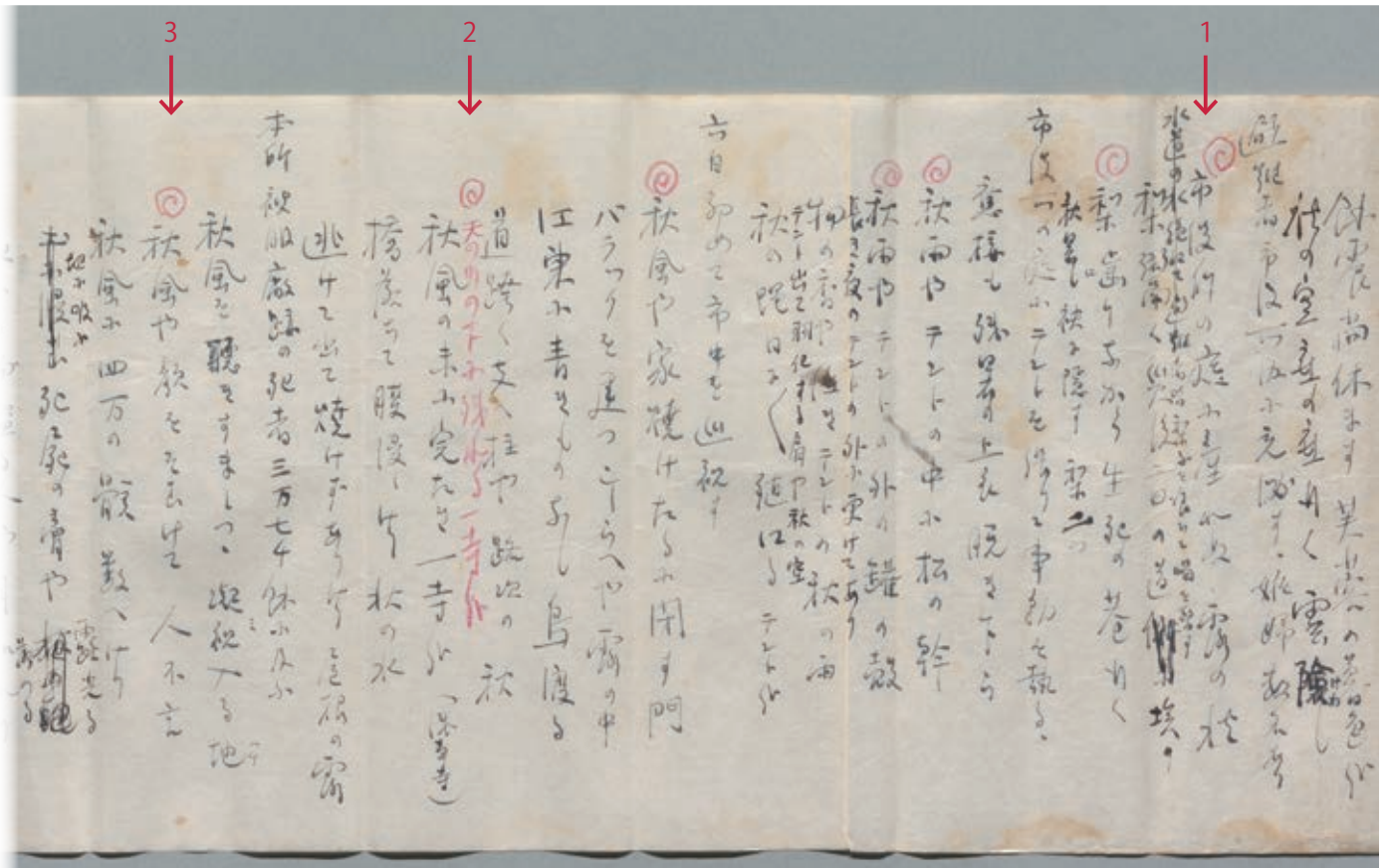
『ホトトギス』に掲載された永田の俳句
 永田青嵐「震災雑詠」『ホトトギス』27 (5) 通号329, 1924.2
<https://dl.ndl.go.jp/pid/7972448/1/6>

憲政資料の中から 東京市長の俳句

このうち、その第四にあたる私文書のうちから二つばかり取り上げてみたい。永田秀次郎の関係文書には多くの関東大震災関係資料があるが、一風変わったものに句集がある。永田は内務官僚ながら釣りや囲碁を愛する庶民的な面も持ち合わせた人物であった。特に高浜虚子と友人であり雑誌『ホトトギス』の同人でもあった永田（俳号は青嵐）は、震災当日からさまざまな場面で句を詠んでおり、それらは同誌の大正13（1924）年2月号に「震災雑詠」として掲載されている。

左上はその自筆の原稿で、ここには掲載された分（句の上に朱で◎印が付いているもの）以外の句も記されている。

これらのうち、「市役所の庭に産れぬ露の秋」の句（写真↓1）は、おそらく地震直後に東京市役所内に避難してきた人たちの中に数名の妊婦がいたことを詠んだものである。この時点ではいまだ破壊の中でも新たな生命が誕生していく希望がみられるが、震災5日後に初めて市中を巡視した際には「天の川の下に残れる一寺哉」（写真↓2）と被害を実感し、最大の被害を出した本所被服廠に行つた際の「秋風や顔をそむけて人不言」（写真↓3）からは救いようのない様子が浮かんでくる。さらに、「秋の風互に人を怖



「震災雑詠」 永田秀次郎の俳句をしたためた原稿 『ホトトギス』に掲載された俳句には◎が付されている。
 <永田秀次郎・亮一関係文書 1092>

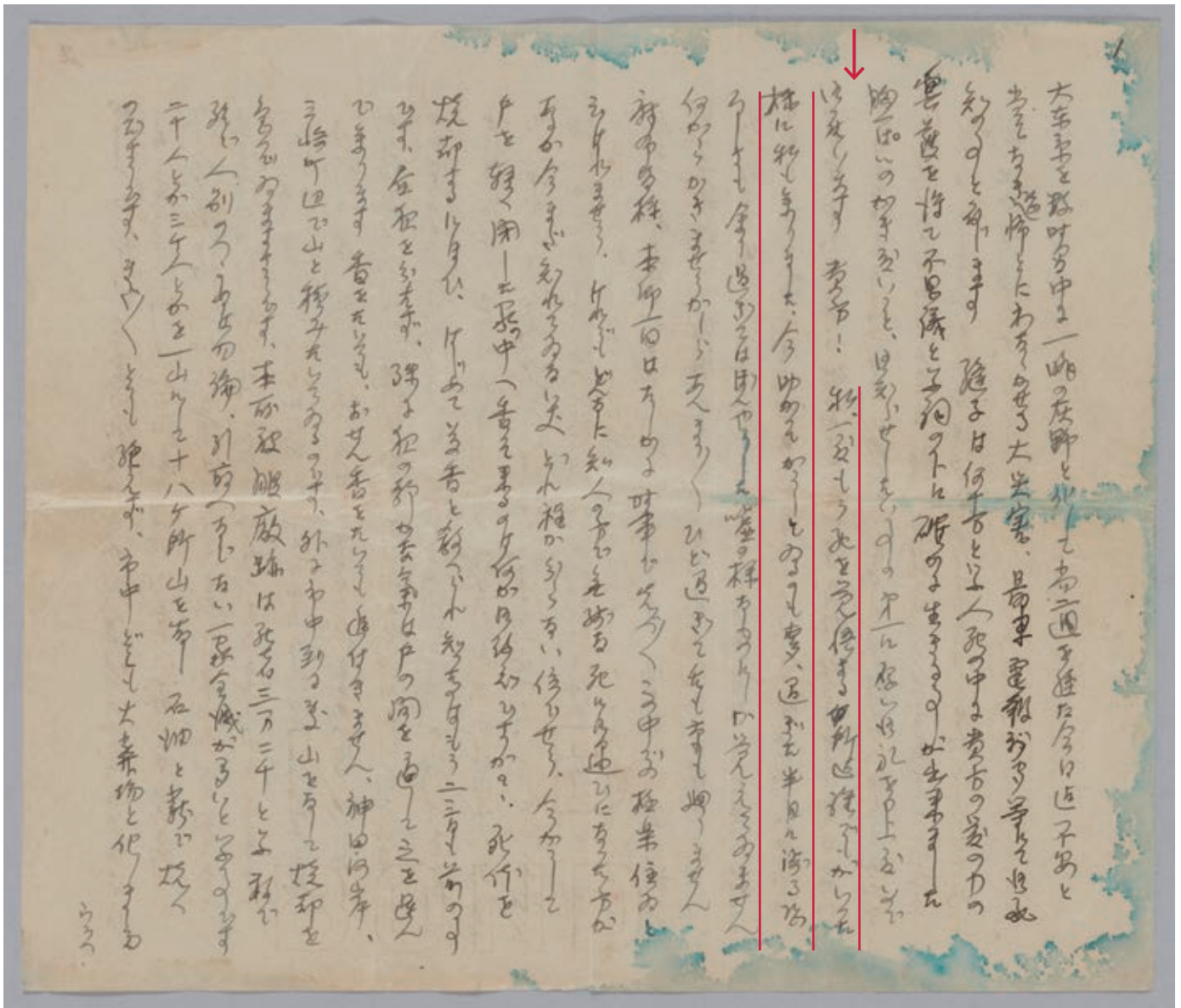
永田秀次郎 (1876-1943)

明治9(1876)年兵庫生まれ。明治32(1899)年12月判検事登用試験、弁護士試験及第、司法官試補・検事代理、翌年文官高等試験合格、明治45(1912)年内務書記官、内務省警保局警務課長、その後、京都府警察部長、三重県知事を経て、大正5(1916)年内務省警保局長、大正7(1918)年貴族院議員、大正9(1920)年に後藤新平東京市長のもとで東京市助役。大正12(1923)年5月東京市長となるも翌年9月辞職、昭和5(1930)年にふたたび東京市長、昭和12(1937)年広田内閣拓務大臣、昭和14(1939)年阿部内閣鉄道大臣。



肖像写真の出典：「近代日本人の肖像」(https://www.ndl.go.jp/portrait/datas/496/)

れけり」 「秋風に人夫の顔の白き哉」(失職した労働者) など、すさぶ人心を詠んだものが続くが、時間の経過とともに「板買うて釘が足らぬや小屋の秋」「行秋や夜警やめたる隣町」など、しだいに復興に向けた動きが始まっている様子も垣間見ることができる。



佐々縫子書簡 佐々弘雄宛 大正12(1923)年9月19日付 <佐々弘雄関係文書27-67>

憲政資料の中から 一組の夫婦の書簡

次に紹介するのは、佐々弘雄と妻縫子ぬいこの往復書簡である。弘雄は明治30(1897)年に佐々友房の三男として出生したが、東京帝国大学法学部在学中に吉野作造らの感化を受け、卒業後は政治学者として期待を集めていた。そして、2年間の欧州留学中に関東大震災が発生することになった。縫子は当時22歳で、震災発生時は父で東京帝国大学図書館長を長く務めていた和田万吉(震災後、図書館所蔵図書焼失の責任をとって辞任)の家で暮らしていた。

震災に遭遇した妻から夫へ

さて、震災後の最初の両者間の書簡は、震災から半月以上経った大正12(1923)年9月19日付の縫子書簡である。そこには、「私一度もう死を覚悟する所迄、誰でもがいった様に、私も参りました。今助かってかうしてゐるのも夢、過ぎた半月に渡る恐ろしさも、余り過ぎてはぼんやりした嘘の様なものにしか覚えておません」と恐怖の様や(上の写真)、「この位市民が一致共同した事はないでせう」「驚くのはあれ丈の苦しみを味ったのに、直ぐに疲れる事なしに回復を第二日より初めた事、思切りのよさ、さっぱり裸一貫よりやってみせるといふ意気の考へにて、涙がこぼれるぢやございませんか」と人間への賛美も記されている。



封筒（裏）



封筒（表）



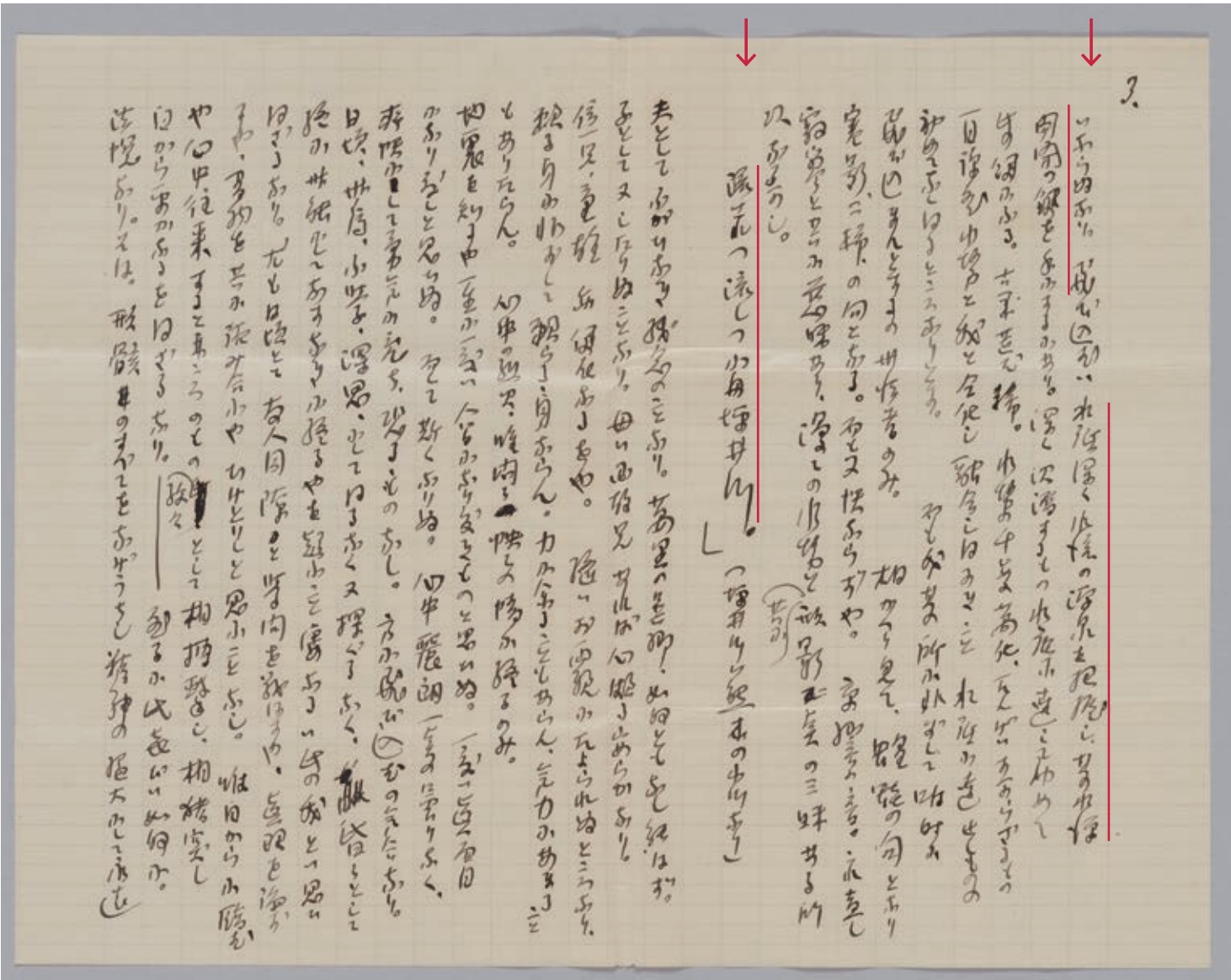
佐々弘雄の家族写真 中央（左から4番目）が弘雄 左から2番目が縫子 <佐々弘雄関係文書1632>



佐々弘雄（1897-1948）

明治30（1897）年熊本生まれ。佐々友房三男。大正9（1920）年東京帝大法学部卒、同助手。大正11（1922）年7月～大正13（1924）年11月欧州留学を経て、大正13（1924）年12月～昭和3（1928）年4月、九州帝大文学部教授。九大事件により辞職。東京朝日新聞入社後、論説委員、論説室主幹を経て戦後、参議院議員（第1回総選挙当選）、昭和23（1948）年に死去。大正10（1921）年に結婚した妻・縫子は、日本の図書館学の草分けとして知られる和田万吉（1865～1934）の長女。

肖像写真の出典：佐々弘雄の肖像写真<佐々弘雄関係文書1632>



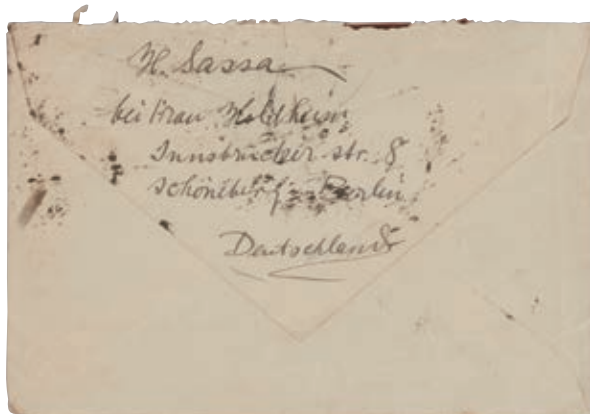
佐々弘雄書簡 佐々縫子宛 大正12(1923)年10月12日付 <佐々弘雄関係文書1-82>

海外留学中の夫から妻へ

妻からの書簡に対し、夫弘雄の10月12日付の書簡には「流されつ流しつ小舟坪井川」（坪井川は佐々の郷里である熊本にある川）との句が添えられ、これは震災を含めた逆境の流れの中で川に飛び込み「水底深く水流の源泉を把握し、其の水源地の鍵を手に」しようとの意であり、いまの自分は飛び込む気合で満ちていと記されている。

書簡の写真のみでいただければ分かりの通り、これら往復書簡は細かい字で長々と綴られているが、その裏では、国内の当事者と国外の傍観者、妻と夫などさまざまな視点が交錯し、内容はさらに濃厚なものになっている。また、震災に対する東京帝国大学法学部や大学図書館の対応など、別の観点からの興味深い動向も記されている。

さまざまな段階の記憶の痕跡を記録する以上、簡単に紹介したが、そこから破壊直後に生まれては消えた希望、時間の経過とともに変わりゆく震災への思い、俳句という表現形式による複雑な感情の整理手段、などいくつかの興味深い点が読み取れる。資料とは記録であるが、通常は後世に伝わりにくいさまざまな段階の記憶形成の記録にもなりえるようにある。



封筒（裏）



封筒（表）



東京朝日新聞 復興記念号（13740号付録）1924.9.1
 <憲政資料室収集文書1372-50>



写真 6歳頃の和田縫子（左端。右は縫子の弟妹。
 <佐々弘雄関係文書1631>

憲政資料室のご案内（東京本館 本館4階）

幕末・維新期から現代にいたる政治家・官僚・軍人などが所蔵していた文書類を集めた「憲政資料」、第二次世界大戦終了後の連合国による日本占領に関する米国の公文書を中心に集めた「日本占領関係資料」、主に北米・南米への日本人移民に関する資料を集めた「日系移民関係資料」を扱っています。

憲政資料室の利用方法、所蔵資料の概要については、国立国会図書館ホームページ「憲政資料室」(<https://www.ndl.go.jp/jp/tokyo/constitutional/index.html>)、今回紹介する資料を含む憲政資料の概要については、リサーチ・ナビ「憲政資料（憲政資料室）」(<https://mavi.ndl.go.jp/kensei/jp/index.html>)をご覧ください。

本誌関連記事

「憲政資料室の新規公開資料から 永田秀次郎・亮一関係文書、若槻礼次郎関係文書」『国立国会図書館月報』603, 2011.6（本文pp.20-23に「永田秀次郎・亮一関係文書」の紹介）
https://dl.ndl.go.jp/view/download/digidepo_3050794_po_geppo1106.pdf?contentNo=1#page=22

「憲政資料室の新規公開資料から」『国立国会図書館月報』703, 2019.11（本文p.9に「佐々弘雄関係文書」の紹介）
https://dl.ndl.go.jp/view/download/digidepo_11377396_po_geppo1911.pdf?contentNo=1#page=11

※ < >内は当館請求記号

ごぞんじですか？

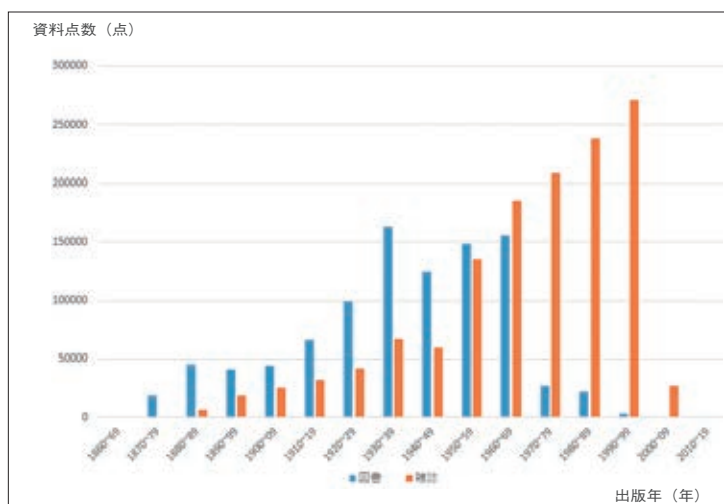
NDL Ngram Viewer

国立国会図書館は、資料のデジタル化に取り組んでいます。OCR技術を用いたテキスト化も実施して全文検索を可能としています。2022年12月には国立国会図書館デジタルコレクションの全文検索対象を大幅に拡大し、2021年末時点で提供していた日本語のデジタル化資料のほぼ全てである約247万点の中身を検索できるようにしました。

全文検索をより便利に活用するためのツールとして、出版年代ごとに単語の出現頻度を可視化できる実験サービス「NDL Ngram Viewer」を提供しています。本誌2022年11月号でご紹介したときは、対象範囲は、著作権保護期間が満了した図書約28万点でしたが、2023年1月には先述の247万点のうち図書（約97万点）及び雑誌（約132万点）の計約230万点に拡大しました。また、国立国会図書館デジタルコレクションの検索結果へリンクするように改修しました。



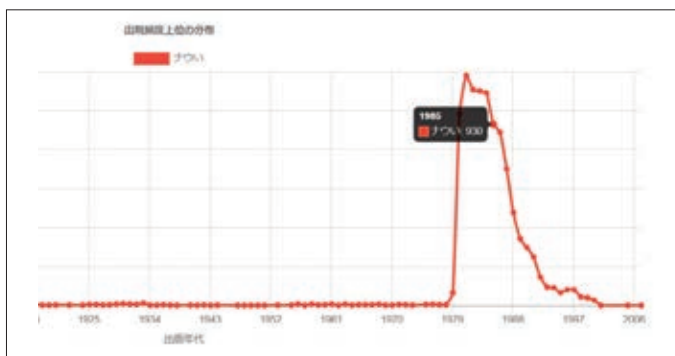
NDL Ngram Viewer
(<https://lab.ndl.go.jp/ngramviewer/>)



NDL Ngram Viewer 対象資料のグラフ

主として、図書は1960年代まで、雑誌については1990年代までの出版年代の資料が対象となっており、対象範囲の拡大に伴って、比較的新しい語句についても把握しやすくなりました。

NDL Ngram Viewer を用いて「ナウい」の出現頻度を可視化し、グラフ中の1985年のデータ点にカーソルを合わせています。クリックすると国立国会図書館デジタルコレクションの全文検索結果にリンクします。





(出典) Wikimedia Commons
<https://commons.wikimedia.org/wiki/File:Botticelli-primavera.jpg>

正規表現検索

突然ですが、皆さんは左の絵をご存じでしょうか？

はい、サンドロ・ボッティチェリ（1445頃～1510）の「春（プリマヴェーラ）」ですね！ ボッティチェリは日本にも早くから紹介され、明治期以降の日本の出版物において数多くの言及があります。特に古い年代の出版物でのカタカナの人名は表記が一定しないことも多く、全文検索を利用してボッティチェリに関する記述を調べたいとき、表記揺れに注意が必要です。

今回のケースでは、カタカナの表記揺れをいくつか思い浮かべてみましょう。「ボッティチェルリ」「ボツチチェリ」「ポティチェリ」……だんだん自信がなくなってきました。

「ボ○○チ○リ」や、「ボ○○○チ○○リ」のような穴埋めに当てはまるパターンを探すというニーズに応えられるのが正規表現検索*です。

*正規表現検索 一定のルールにのっとり所定の記号を使って、文字（テキスト）の並びのパターンを表現する方法を「正規表現」といい、その表現を用いた検索方法のこと。

人名表記の揺れを調べる新しい方法のひとつとして、NDL Ngram Viewerも活用することができます。一例として「ボ.*チ.*リ」でボッティチェリの表記揺れを探してみた例を下に掲載しています。「ボーナスはガツチリ」のような、本来期待していたものと異なる語句もヒットしてしまうので、人の目で確認する必要はありますが、正規表現検索によってボッティチェリの別人名と思われる表記をごく短時間で発見できました。繰り返し検索していけば、まだまだ見つかりそうです。

国立国会図書館デジタルコレクションの全文検索と併せてNDL Ngram Viewerを効果的に使うことで、調べ物をより便利に、より充実させることができます。ぜひお試しあれ！

（電子情報部電子情報企画課
 次世代システム開発研究室）



「ボ.*チ.*リ」（「ボ」から始まり、間に「チ」が入り、最後が「リ」で終わる語）のように正規表現を使って検索すると、当てはまる語句が列挙され、それぞれの語句の出版年代ごとの出現頻度がわかる。

「ボ.*チ.*リ」の検索結果

ボッティチェルリ	ボツチチェルリ	ポチセリ	ポチチェルリ	ポツチセリ
ボッティチェリ	ポティチェルリ	ポッティチェリ	ポツチチェリ	ポッティチェリ
ボツチチェリ	ボツチチェリ	ポツチチェリ	ポツチェルリ	ポツチチェリ
ポティチェリ	ポチチェリ	ポツティチェルリ	ポツチチェリ	ポツティチェリ
ポチチェリ	ポツティチェリ	ポッティチェルリ	ポツティチェリ	ポツティチェルリ
ポッティチェリ	ポツチェリ	ポッティチェリ	ポッティチェルリ	ポチチェリ
ポッティチェルリ	ポティチェリ	ポティチェリ	ポチチェルリ	ポツティチェルリ

ボッティチェリの別人名と思われるカタカナ表記

第1回

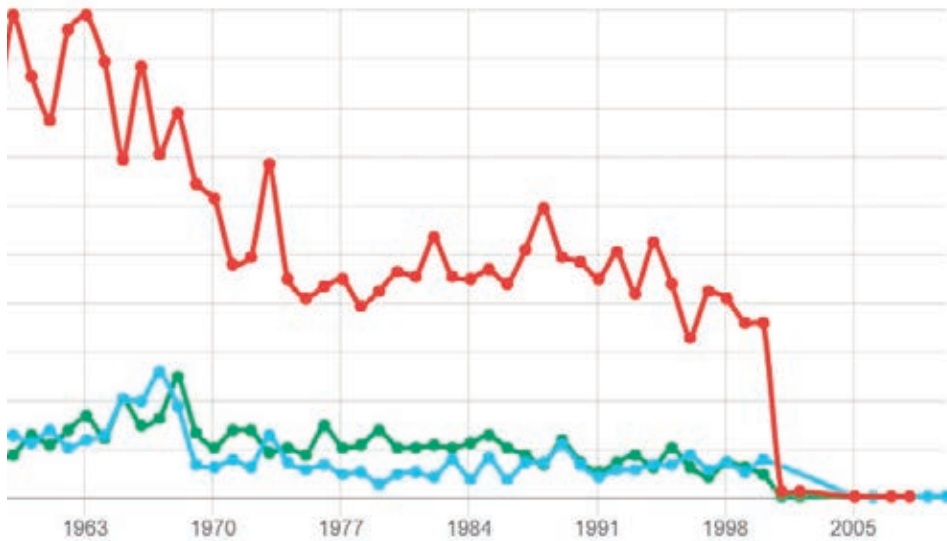
辞書編集の立場から

森田 康夫

MORIYA Yasuo



小学館に在職。国語辞典編集者を経て、『大辞泉』『ニッポニカ』の電子版を制作。デジタル辞書部門を統括して『日本国語大辞典』など辞書の構造データ化、コーパスの構築などを行うかたわら、ネットアドバンス社・ジャパンナレッジのコンテンツ選定とデジタル化の責任者を務めた。



汚名を挽回するという慣用表現がある。言葉の誤用の例としてしばしば取り上げられ、正しくは、汚名を返上するまたは名譽を挽回するともされる言い回しである^①。

「図1」は、Ngram Viewerによって汚名を返上／名譽を挽回／汚名を挽回を比較した結果だが、誤用とされる汚名を挽回の初出（1890年）が汚名を返上のそれ（1935年）よりだいぶ古く、汚名を挽回と名譽を挽回の使用状況には全年代を通じて大きな差が見られない。何より興味深いのは、この3つの表現が顕著に使われ出すのは1940年代の後半からで、それ以前はそもそも使用例自体が非常に少ないということだ。この図を見る限り、汚名を挽回と汚名を返上はほぼ同じ頃、日本が戦争に敗れてから数年後にさかんに使われ出した兄弟のような存在である。おそらく当初はどちらも違和感のある表現だったのでないだろうか。

「〜を挽回する」の「〜」の位置に出現する語を調

べてみると、頻度の上位に来るのは「**②** 頹勢／大勢／勢力／衰運／家運」などである。このうち頹勢と大勢を比較に加えたのが「**図2**」だが、汚名を挽回／汚名を返上などが多用されるのは戦後のことで、それ以前の使用頻度は頹勢を挽回／大勢を挽回に比べて微々たるものであったことが、長いスパンの中でよりはつきり示されている^③。

卓越した辞書編纂者であった松井栄一^④氏は、辞書の用例の重要な役割として「その言葉の使われた時代を示すこと^⑤」を挙げている。なるべく多くの用例を掲げ、それによってその語がいつ頃から使われ始め、いつ頃まで使われたかを知る手がかりを示すということである。しかし、どれほど頑張っても辞書の用例が示せるのはいわば「点」であって、ある時点で確かにその言葉が使われたという事実にとどまる。

その意味で、言葉の使用の量の推移を時系列に可視化するNgram Viewerは辞書編集者に

国立国会図書館は、デジタル化された資料を対象に、OCR技術を用いたテキストデータ化を進めています。作成されたテキストデータの中での語彙の出現頻度を視覚化できるNDL Ngram Viewerを活用して、出版物の中の語彙の使われ方を考える新連載です。第1回は、辞書編集の専門家から寄稿いただきました。

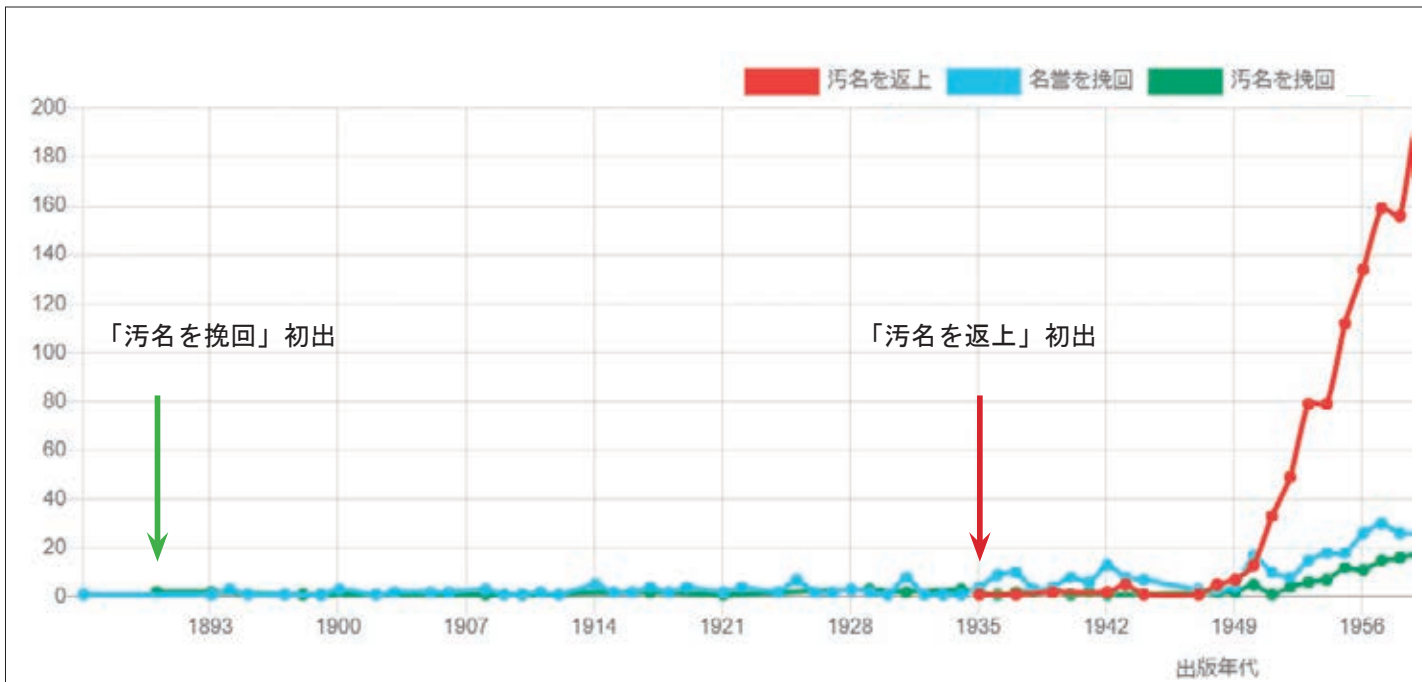


図1 「汚名を返上 / 名誉を挽回 / 汚名を挽回」の検索結果



図2 「類勢を挽回 / 汚名を返上 / 大勢を挽回 / 汚名を挽回」の検索結果

とって驚異的だ。時代的な制限はあるが、約17億語（2023年1月現在）の巨大コーパスをもとに、その語が実際にどれくらい使われたのか、類似の語と比べてどうか、いつ頃から使われ始め、いつ頃からすたれたかなどが一目で見渡せるだけでなく、国語辞典が弱い社会科学、自然科学を含む広い分野の資料が含まれているのだから心強い。

もちろん扱いに注意すべき点も多い。「図2」の類勢を挽回を見ると、敗戦の年（1945）前後がVの字を描いているが、これは言葉の使用頻度とは関係なく、NDL所蔵資料の増減に起因するものだろう。1968年にもグラフの急降下が見られるが、こちらは資料デジタル化の進展状況などに関係がありそうだ。

しかしさまざまな問題点はあるにせよ、Ngram Viewerが今後の辞書編集、特に『日本国語大辞典』のような、言葉の意味・用法などの歴史の変遷の記述に重きを置いた辞書の編集に決定的な役割を果たすことに疑いの余地はない。こうした大規模言語データを適切に解釈し、それを語釈の執筆・改善に導くことのできる編集者が今後の辞書編集を担って行くはずである。

- (1) 最近ではこれを誤用と認定しない辞書もいくつかある。
- (2) NDL Ngram Viewerの正規表現検索による。
- (3) 「類勢 / 大勢 / 勢力 / 衰連 / 家連」と共に使われる「挽回」の意味は、物事の勢いなどを「ひきまじす」ことであり、「汚名」とは共に起こる「い語であったものと思われ。
- (4) 1926～2018. 日本の国語学者、『日本国語大辞典』初版（小学館 1972～1976）と第2版（同、2000～2002）の編集委員。
- (5) 松井栄一「日本人の知らない日本の国語辞典」（小学館 2014）46頁〈当館請求記号 KF93・L13〉

寝不足の震度4



実際のエレベーター監視画面。地震管制が働いたことを知らせてくれます。

某日未明、自宅寝室で枕元のスマートフォンが緊急地震速報を受信しました。身構えたところに間髪入れず地震が来ます。ゴゴゴと結構な横揺れ。でも案外すぐに収まりました。

震度はというと、私の住む地域は震度3でしたが、東京本館のある千代田区が「震度4」でした。ここで「今朝は忙しくなるな」と確信します。

実は、我々施設系の職員にとって「震度4」は結構緊張を覚える数字なのです。なぜかというところ、設備面で色々なトラブルが起き始めるのが大体震度4だから。特にトラブルが起きやすいのはエレベーターです。通常、大きめの地震が来るとエレベーターは管制運転に移行して最寄り階で自動停止し、後に復旧します。ところが、震度4を超えると停止したまま復旧しないものが時々出てしまうのです。これはとても大変なことで、ドタバタと復旧に追われることになります。他にも、ガスの緊急遮断弁が働いたり、防火戸が予期せず閉じたり……震度4を超えると様々なトラブルが生じてきます。

この日もそうでした。夜勤の警備員に確認すると、なんと本館書庫のエレベーター全てが停止したまま復旧しないとのこと。これは開館時刻までになんとか

かしないとイケません。自宅から関係各所に電話したり、職員間で情報共有したり、未明からバタバタと大忙し。リビングでスマホに釘付けの早朝です。専門業者が到着し、エレベーターが復旧した頃にはもう通常の出勤時刻が迫っていて、これまたバタバタと家を出ました。通勤電車の中ではなんだかもう一仕事終えた感覚で、朝から一服したい気分でした。

結局、この日は定刻に開館して「いつもどおり」のサービスを提供できました。当館だけでなく、周辺の諸施設を見ても概ねいつもの日常が送られていたように思います。しかし、地震の度にバタバタする当事者としては、「いつもどおり」の裏にある苦労に思いを馳せずにいられません。皆さんも、未明に大きめの地震があった日、朝から妙に疲れている人を見かけたら、少しだけ労わってあげてください。

ちなみに、地震でトラブルにつながるやすいのは主に設備面です。建物の構造は、耐震改修等も経て非常に頑健なものであり、大地震でも問題ないように我々も日々万全を心掛けています。この点はどうぞご安心ください。

(管理課 技術屋)

本屋に

ない

本



概説高輪築堤

港区教育委員会（同事務局教育
推進部図書文化財課文化財係）編
港区教育委員会 刊
2022.3 64p；30cm
<請求記号 NA161-M67>

10月14日は、明治5（1872）年に日本初の鉄道が新橋と横濱間で開業したことを記念する「鉄道の日」である。この時の線路の遺跡「高輪築堤」が近年発見されたことを「存じだろ

うか。「築堤」というのはあまり聞き慣れない言葉ではあるが、簡単に言うと堤防のこと。場所は山手線で最も新しい駅の高輪ゲートウェイ駅のすぐ近くである。本書は、港区教育委員会による高輪築堤の調査報告書である。第1章から第2章まででは、築堤の周辺環境や築造の経緯について説明されている。収録された古地図からも分かるが、鉄道の建設前、高輪周辺は住宅地や軍の用地が広がっており、陸上

に線路を通すには用地取得の面で制約が大きかった。そのため、品川駅の東側の約2.7kmの区間は、建設を推進した大隈重信の決断もあり、海上に堤防を築きその上に線路を敷いた。

だが、線路を海上に通すことにも別の問題が浮上した。築堤によって船が海に出られなくなり、住民の漁業や商売を妨げてしまうのである。そのため住民の要求により、築堤の途中に4か所の水路とそれに伴う橋梁が建設された（表紙の写真はそのうちのの一つ）。

こうして完成した築堤は、浮世絵に描かれたり写真に撮られたりするなど、東京の名所となった。だが線路の増設や車両基地の建設などにより周囲が埋め立てられたことで、築堤はその

役目を終え、いつしか場所も分からなくなっていた。

再び築堤が日の目を見たのは、平成31（2019）年4月に再開発に伴う工事で石垣が発見されたことがきっかけだった。第3章から第5章まででは、発掘調査の過程とその意義が述べられている。現場の写真を見ると、造営から150年も経ったにもかかわらず、当時の思いが伝わってくるかのよう、石垣がほぼ原形を保っていたことが見て取れる。本書に掲載されている築堤を描いた浮世絵と見比べてみると、浮世絵がかなり現物を忠実に描写していることが分かる。さらに、単に石を積んだだけではなく、基礎固めや波除の目的と考えられる杭を立て、

信号機の部分には土台の形に石垣を張り出させるなど、様々な工夫がなされていたことも紹介されている。

遺跡自体は再開発に伴い多くの部分が解体された。しかし信号機の台座や橋台は現地で保存されることとなり、石垣の一部は新橋駅前のSL広場や大隈の出身地である佐賀県の県立博物館にモニメントとして設置された。日本の近代化を文字どおり支えた築堤は、これからもその歩みを長く伝え続けるのだろうか。

ちなみに、去年の『国立国会図書館月報』の表紙の中には、高輪築堤とそこを走る蒸気機関車を描いた作品が使われている。どの号か探してみてもいかがだろうか？
（中村魁）

※本書は国立文化財機構奈良文化財研究所のウェブサイト「全国遺跡報告総覧」でPDFが閲覧可能です。

国立国会図書館は、法律によって定められた納本制度により、日本国内の出版物を広く収集しています。このコーナーでは、主として取次店を通さない国内出版物を取り上げて、ご紹介します。

第25回図書館総合展〈2023〉に参加します

10月24日（火）から10月25日（水）までパシフィコ横浜で、10月26日（木）から11月15日（水）までオンラインで開催される「第25回図書館総合展〈2023〉」に、国立国会図書館も参加します。

展示ブースや図書館総合展のウェブサイトで、国立国会図書館の様々なサービスをご紹介します。また、期間中に次のフォーラム（会場開催 後日録画配信予定）を開催します。

フォーラム「あなたもわたしも読みやすくなる！ アクセシブルな電子図書館を実現する第一歩」『電子図書館のアクセシビリティ対応ガイドライン』を足掛かりに」

○日時 10月25日（水）15時30分～17時

○会場 パシフィコ横浜アネックスホール（定員200名）

○講師 近藤武夫東京大学先端科学技術研究センター教授

植村八潮専修大学文学部教授 ほか

○お申込みは9月中旬から国立国会図書館ホームページにて受け付けます。ホームページの「イベント・展示会情報」をご覧ください。

○問合せ先 総務部 総務課 広報係

電話 03（3581）2331（代表）

第25回図書館総合展〈2023〉（主催：図書館総合展運営委員会）
 ・期間 10月24日（火）～11月15日（水）
 ・会場 パシフィコ横浜／図書館総合展公式ウェブサイト
 ／サテライト会場

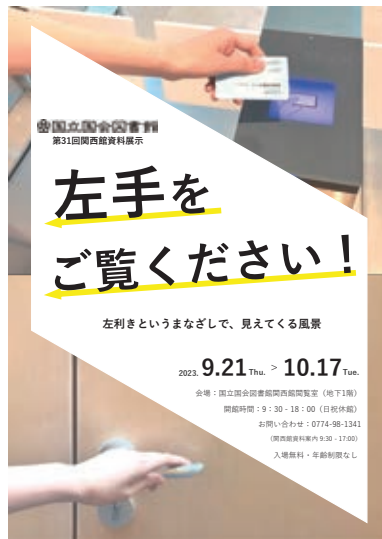
関西館資料展示（第31回）

「左手をご覧ください！ —左利きというまなざしで、見えてくる風景—」

朝起きて寝室のドアノブを時計回りに回し、出かける前に腕時計を左腕につけ、自販機にお金を入れ、駅の改札を通り、サイドテーブルのついた椅子に座って、横書きのノートにメモを取り、パソコンのマウスを握り、カウンター席で友人と並んで昼食を取る。このありふれた日常は、左利きの人と右利きの人では見える風景が違います。

身近な個性である、左利き。右利きの人も、「左利き」というまなざしを得てはじめて、右利きを前提にデザインされたものの多さに気が付き、見えてくる風景があります。また近年関心を集めるSDGs（持続可能な開発目標）では、「誰一人取り残さない」ことが理念に掲げられています。そうした背景のもと、誰もが公平に、そして容易に使えることを目指すユニバーサルデザインの取組の一環として、左利きへの注目も高まっています。

本展示では、左利きに関する本や雑誌など約70点を、歴史、科学、社会等の切り口から紹介します。左利きという身近な個性について、そして利き手に関わらず誰もが暮らしやすい社会について、この機会に考えてみませんか？



第31回関西館資料展示「左手をご覧ください！ —左利きというまなざしで、見えてくる風景—」ちらし

○開催期間 9月21日（木）～10月17日（火）
 ※日曜・祝日を除く
 ○開催時間 9時30分～18時
 ○会場 関西館地下1階閲覧室
 ○問合せ先 関西館資料案内
 電話 0774（98）1341

NDL Topics



展示会「おいしい児童書」ちらし

国際子ども図書館展示会 「おいしい児童書」

みんな！ 食べて生きている

国際子ども図書館では、令和5年10月1日（日）から12月24日（日）まで、展示会「おいしい児童書」を開催します。

この展示会では、国際子ども図書館の所蔵資料から、食にまつわる国内外の児童書を展示します。「つくる」、「たべる」、「かんがえる」という3つの切り口から、「食」を描いた児童書を取り上げます。

「食」をキーワードに、児童書で世界をめぐる旅に出かけましょう！

○開催期間 10月1日（日）～12月24日（日）

※月曜日、国民の祝日・休日、毎月第3水

曜日（資料整理休館日）は休館

○開催時間 9時30分～17時

○会場 国際子ども図書館レンガ棟3階本のミュージアム

関連イベントのご案内

講演会「絵本に描かれる食べもの―異文化理解、暮らし、ジェンダーの視点から―」

龍谷大学短期大学部こども教育学科准教授の生駒幸子氏を講師にお迎えし、絵本に描かれる食べものについて、異文化理解、暮らし、ジェンダーの視点から読み解いていただきます。文化・時代を超えて読み継がれる、食べものが描かれる絵本の魅力を一緒に探ってみませんか。

○日時 10月1日（日）14時～16時（13時30分受付開始）

○会場 国際子ども図書館レンガ棟3階ホール

○対象 中学生以上

○定員 100名（事前申込み制、先着順。）

○申込方法 講演会HPからお申し込みください。

<https://www.kodomo.go.jp/event/event/2023-10.html>

○締切 9月19日（火）

会場では、あらかじめ録画した講演動画を上映します。動画上映後、質問を受け付け、その場で講師から回答していただきます。講演会終了後、講演動画をYouTubeの国立国会図書館公式チャンネルで公開します。

○公開期間 10月2日（月）～12月24日（日）

○対象 中学生以上を対象としますが、期間中はどなたでもご覧いただけます。

○申込み 申込みは不要

○問合せ先 国際子ども図書館資料情報課展示係

電話 03（3827）2053（代表）

資料のデジタル化に伴う原資料の利用休止について

国立国会図書館では、所蔵資料の保存と利用の両立を図るためデジタル化による媒体変換を行い、作業が終了した後は、原資料に代えてデジタル化資料を提供しています。このデジタル化作業のため、次のとおり一部の資料の利用を休止します。

○利用休止予定期間

令和5年8月15日（火）～令和6年4月1日（月）

国際子ども図書館所蔵の和図書 約2万冊

（昭和44年から昭和58年までに刊行された資料の一部）

※対象資料は順次利用を休止します。ご利用いただけない資料は、国立国会図書館オンラインの書誌詳細画面の所蔵一覧で、「作業中 デジタル化のため」の表示でお知らせします。事前に検索してご確認ください。

※詳細については、国立国会図書館ホームページの資料の保存・資料デジタル化について・デジタル化作業に伴う原資料の利用休止についてに掲載しています。

ご不便をおかけしますが、国民共有の文化的資産を後世に伝えるため、ご理解とご協力をお願いいたします。

NDL Topics

令和5年度 アジア情報研修

アジア情報の収集・提供に関するスキル向上を図るとともに、アジア情報関係機関間の連携を深めることを目的として、令和5年度アジア情報研修を行います。昨年度に引き続き、日本貿易振興機構（ジェトロ）アジア経済研究所と共催で実施します。

○日時 令和5年12月7日（木）～8日（金）

○会場 日本貿易振興機構アジア経済研究所（千葉市美浜区若葉3-2-2）

ただし新型コロナウイルス感染症拡大等の社会情勢によってはWeb会議システムによるリモート開催に変更します。

○対象 各種図書館、調査・研究・教育機関、中央官庁、地方公共団体等に属する方、大学院生等。

○定員 20名（原則、1機関につき1名）。応募多数の場合は調整します。

○テーマ 変化する中国を調べる～ビジネス情報と人口統計～

○内容（予定）
12月7日（木）13時15分～17時40分

科目①「ビジネス情報を調べる」(関西館アジア情報課)
講演「ビジネスとテクノロジーを調べる」：中国企業・産業研究のケース

(講師 木村公一朗氏 (アジア経済研究所))
12月8日（金）9時30分～12時25分

科目②「人口統計から調べる」(アジア経済研究所学術情報センター)

*「科目①」及び「科目②」は、実習を行います。
*受講者の方には、事前課題にご回答いただきます。

○参加費 無料

ただし、旅費、滞在費等、リモート開催の場合の通信費等は受講者にご負担いただきます。

○申込方法 国立国会図書館ウェブサイトの左記のページからお申し込みください。

「アジア情報研修 変化する中国を調べる～ビジネス情報と人口統計～」
<https://form.ndl.go.jp/form/pub/ndl7/asiatraining2023>

*申込受付後にお送りする確認メールが届かない場合は、左記までお電話ください。

○申込期限 令和5年10月12日（木）
*参加の可否は、令和5年10月20日（金）までお知らせします。

○問合せ先

関西館アジア情報課

電話 0774(98)1371(直通)

電子メール nlk.asia@ndl.go.jp

「電子図書館のアクセシビリティ対応ガイドライン1.0」を公開

国立国会図書館は、電子図書館（商用の電子書籍を図書館を通じて提供するサービス）を、視覚障害者等が利用するにあたって必要なアクセシビリティに係る要件を整理した「電子図書館のアクセシビリティ対応ガイドライン1.0」を令和5年7月19日にホームページで公開しました。本ガイドラインは、「視覚障害者等の読書環境の整備の推進に関する基本的な計画」が求める施策を講ずるものとして、国立国会図書館が事務局となり、「図書館におけるアクセシブルな電子書籍サービスに関する検討会」が作成したものです。

各種図書館においては、電子図書館を調達・導入するための調達仕様を検討する際に、電子図書館事業者においては、自社が提供するサービスの開発・改修時において、アクセシビリティの対応項目や優先順位を検討する際に利用されることを想定しています。

詳しくは「電子図書館のアクセシビリティ対応ガイドライン1.0」のページをご覧ください。

<https://www.ndl.go.jp/support/guideline.html>



NDL Topics



令和5年度国立国会図書館長と都道府県立及び政令指定都市立図書館長との懇談会

令和5年度国立国会図書館長と都道府県立及び政令指定都市立図書館長との懇談会

6月30日、標記懇談会が開催されました。この懇談会は、国立国会図書館と公共図書館との協力の推進を図ることを目的として開催され、今年で58回目となります。オンライン形式により行い、都道府県立及び政令指定都市立図書館71館が参加しました。

初めに、黄地吉隆文部科学省総合教育政策局地域学習推進課長が、最近の図書館行政の動向について報告を行いました。続いて、今年度の懇談会のテーマ「地域資料・歴史資料と人材育成」の下、京都府立京都学・歴史資料の金田章裕館長が、所蔵資料の特色、地域資料・歴史資料が地域研究に果たす役割、自館の人材の採用・育成等について報告しました。

懇談会の後半のグループ懇談では、各館での地域資料・歴史資料と人材育成の取組や課題をテーマに、9つのグループに分かれて意見交換を行いました。その後、各グループから懇談内容の発表を行いました。資料の収集・提供に加えデジタルアーカイブ等、職員に要求される能力が多様化しており、より実践的な研修や外部機関と連携した人材育成が重要であること、地域資料・歴史資料を扱う専属の職員を持つ館がある一方、予算と人材が不足し、専門的な知識を持つ職員を配置できない等、多くの館で人材育成に苦労していること、人材育成の機会として、館内の若手職員による勉強会のほか、県図書館協会による研修の実施、県域を超える地区での担当者会議、外部講師による研修会等の開催、デジタルアーキビスト等の外部研修を受講といった手法があること等について発表がありました。

おもな人事

△退職▽

令和5年7月31日付け

専門調査員 調査及び立法考査局社会労働調査室主任

小寺 正一

△異動▽ ※（ ）内は前職

令和5年7月1日付け

総務部副部長（収集書誌部副部長） 藤本 和彦

収集書誌部副部長、収集・書誌調整課長事務取扱（司書監 収集書誌部付、収集・書誌調整課長兼務） 上保 佳穂

令和5年8月1日付け

専門調査員 調査及び立法考査局社会労働調査室主任

（専門調査員 調査及び立法考査局社会労働調査室付）

福井 祥人

NDL Topics

新刊案内

令和4年度国際政策セミナー報告書

「格差、分配、経済成長」

経済発展と所得分配

Debraj Ray (デブライ・レイ) 先生講演内容について

Ray 教授の講演に対する若干のコメント

経済史からみた格差と成長



A4 128頁 不定期刊 ISBN 978-4-87582-916-4

以下のページからPDFファイルをご覧いただけます。

<https://www.ndl.go.jp/jp/diet/publication/document/index.html>

※9月14日(木)に公開予定です。

外国の立法 立法情報・翻訳・解説 第296号

連邦学生ローンと返済免除制度をめぐる米国の動向

と新規制—所得連動型返済プランと公共部門勤務

免除を中心に—

ドイツにおける一般平等待遇法の改正—反差別独立

連邦受託官の新設—

韓国の地域中小企業の育成等に関する法律の制定

台湾・国家安全法の改正



A4 105頁 季刊 1,980円(税込)

ISBN 978-4-87582-914-0

発売 日本図書館協会

レファレンス 870号

アメリカにおける連邦法と州法の関係について

—「連邦の専占」の諸相—

在日米軍施設の整備と継戦能力、抗たん性の強化

—米側予算による整備を中心に—

経済制裁をめぐる議論—目的、有効性及び国際法上

の論点—

放送と情報アクセシビリティ



A4 96頁 月刊 1,100円(税込)

発売 日本図書館協会

レファレンス 871号

「中央銀行のバランスシート問題」と日本銀行の新総

裁—植田和男氏による過去の発言と近年の実証研

究を中心に—

スイス農業法の概要—直接支払制度を中心として—

選挙介入における偽情報の流布と国際法

ドイツにおける一般的役務義務の導入に関する議論



A4 82頁 月刊 1,100円(税込)

発売 日本図書館協会

入手のお問い合わせ

日本図書館協会

〒104-0033 東京都中央区新川1-11-14

電話 03(3523)0812

9/10

NATIONAL
DIET
LIBRARY
MONTHLY
BULLETIN
2023.9/10

NO.749/750

SEPTEMBER/OCTOBER
2023

CONTENTS

- 01 <Book of the month - from NDL collections>
MAKINO Tomitaro's letter: When is kobushi not kobushi?
- 06 What we can learn about earthquakes from HINAGIKU
- 10 The Great Kanto Earthquake as seen in modern Japanese
political history materials
- 22 Have you ever used the NDL Ngram Viewer?
- 24 <Using NDL Ngram Viewer>
(1) A lexicographer's perspective MORITA Yasuo
- 26 <Tidbits of information on NDL>
Who can sleep through a shindo 4 earthquake?
- 27 <Books not commercially available>
Gaisetsu takanawa chikutei
- 28 <NDL Topics>

国立国会図書館月報

令和5年9/10月号 (No.749/750)

令和5年9月1日発行

発行所 国立国会図書館

編集者 川西晶大

印刷所 株式会社丸井工文社

〒100-8924 東京都千代田区永田町1-10-1
電話 03 (3581) 2331 (代表)
FAX 03 (3597) 5617
E-mail geppo@ndl.go.jp
<https://www.ndl.go.jp/>

本誌に掲載した論文等のうち意見にわたる部分は、それぞれ筆者の個人的見解であることをお断りいたします。
本誌に掲載された記事を転載する場合（全文または長文にわたり抜粋する場合、または図版を転載する場合）には、
事前に当館総務部総務課にご連絡ください。
本誌517号以降、PDF版を当館ホームページ（<https://www.ndl.go.jp/>）>刊行物>国立国会図書館月報でご覧いただけます。



NATIONAL
D I E T
LIBRARY
MONTHLY
BULLETIN
2023.9/10

 国立国会図書館
National Diet Library, Japan

図

国

国

書

人

士